

信州大学医学部保健学科
平成 27 年度
夏期海外研修プログラム実施報告書



2015

平成 27 年 11 月 20 日
信州大学医学部保健学科

信州大学医学部保健学科

平成 27 年度夏期海外研修プログラム実施報告書

編集：信州大学医学部保健学科 国際交流委員会

委員長：奥野 ひろみ (看護学専攻)

委員：大平 雅美 (理学療法学専攻)

Ah-Cheng GOH (理学療法学専攻)

相良 淳二 (検査技術科学専攻)

石田 文宏 (検査技術科学専攻)

山崎 浩司 (看護学専攻)

山崎 明美 (看護学専攻)

埴原 秋児 (作業療法学専攻)

事務部：丸山 恵 (学務第二)

川船 圭介 (学務第二)

I. 学術交流にあたって	・ ・ ・ ・ ・ 1
1. 学科長のことば	
2. 同窓会長のことば	
II. 学術交流の概要	・ ・ ・ ・ ・ 3
III. 信州大学医学部保健学科の国際交流プログラム概要	・ ・ ・ ・ ・ 6
IV. 信州大学-Curtin University	
大学間学術交流協定に基づく夏期海外単位認定プログラム	・ ・ ・ ・ ・ 8
1. カーティン大学の概要	・ ・ ・ ・ ・ 9
2. 夏期海外単位認定プログラム	・ ・ ・ ・ 10
3. 研修プログラム詳細	・ ・ ・ ・ 14
4. 学生アンケート	・ ・ ・ ・ 17
5. 学生レポート	・ ・ ・ ・ 28
V. 信州大学—シンガポール	
夏期海外研修保健医療スタディツアープログラム	・ ・ ・ ・ 32
1. シンガポール国の概要	・ ・ ・ ・ 34
2. 保健医療スタディツアープログラムの概要	・ ・ ・ ・ 35
3. 研修プログラムの詳細	・ ・ ・ ・ 36
4. 学生アンケート	・ ・ ・ ・ 42
5. 学生レポート	・ ・ ・ ・ 49

(編集後記に代えて)

I. 学術交流にあたって

1. 学科長のことば

信州大学医学部保健学科長 金井 誠



保健学科長
金井 誠

信州大学医学部保健学科では、国際交流委員会が中心となって、学術・教育面での国際交流推進に向けて取り組んでおり、本年度は2つの短期夏季海外留学プログラムを実施しました。

Australia Curtin University 夏期海外単位認定プログラムには看護学専攻8名、理学療法学専攻8名、作業療法学専攻2名の計18名の学生が、Singapore General Hospital PTE LTD (Sing Health) 保健医療スタディプログラムには看護学専攻7名、検査技術科学専攻3名、理学療法学専攻4名、作業療法学専攻3名の計17名の学生が、総計で32名の学生(内3名は両プログラムに参加)が短期海外留学を経験いたしました。本来ですと、Nepal 保健医療スタディプログラムも実施予定でしたが、本年4月に発生したネパール大地震の影響で、実施を断念せざるをえなくなったことが残念でした。しかしながらNepalへの参加予定者はSingaporeへの留学に予定を変更し、両プログラムには多数の学生が参加して下さったことを嬉しく感じております。また参加者の帰国後のアンケートをみますと、参加者の殆どが、多くの刺激を受けて充実した短期留学を終えたことが窺えます。この体験で得た感性や知識が今後の学生生活、社会人生活に有意義に働くよう期待しています。また本年度も海外より教員をお招きし、オープンミーティング等の開催を計画しています。本プログラム参加者だけでなく、大学院生を含めた多くの学生に参加していただき、交流を深めていただきたいと思います。

本プログラムの運営には、カーティン大学をはじめとする留学先との事前交渉、プログラムの作成、学生へのプログラムの紹介、航空券の確保と準備、支援金の確保、渡航中の学生の安全確保等のために多くの教職員が関わっています。また帯同教員不在中は学部の秋期に向けての準備時期にあたるため、在松の教職員の協力が不可欠です。関係した教職員の方々にこの場をお借りし感謝いたします。

また本年度も参加学生に対しては、日本学生支援機構の海外留学支援制度(短期派遣)の採択を受けての援助をいただくとともに、本学からも「知の森基金を活用したグローバル人材育成の為に学生への短期海外活動支援」、「信州大学知の森未来プロジェクト」より、参加学生および本プロジェクトに帯同する教員の渡航費用の一部等にご援助をいただきました。加えて同窓会の基金からもご援助いただきました。ご配慮くださいました信州大学本部役員の皆様ならびに信州大学医学部保健学科同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。

2. 夏季海外研修プログラムを同窓会は支援し続けます！

保健学科同窓会長 川上由行(信州大学名誉教授・医学部特任教授)

平成 27 年度の夏季海外研修プログラムは、例年と比較して参加学生数がやや少なめですが、総ての行程を滞りなく終了し、参加学生と引率教員の全員が元気で帰国しました。

本年度のプログラムは、これまでと少し異なり、西オーストラリア州パースにあるカーティン大学における 2 週間の研修プログラム（8 月 8 日～22 日）と、引き続き、シンガポールのシンガポール総合病院に於ける 1 週間の研修プログラム（8 月 22 日～28 日）を実施し、多くの学生が両方のプログラムへ参加しました。

カーティン大学での 2 週間は、ホームステイで生活体験をする中で、ホストファミリーを介してのオーストラリアの文化にも大いに触れる機会があったことでしょう。また、オーストラリアに於ける看護、検査、理学、作業の夫々の医療専門教育をカーティン大学の学生と共に受講する中で、相互間の英語によるコミュニケーションの大切さを肌で感じたことと思います。パース市内の各種病院、医療機関に加えて、シンガポールでの 1 週間は、Singapore General Hospital や Bright Vision Hospital などの各種医療機関の見学・研修等を介して、専門職の現任教育の医療水準を肌で感じ取ったことと思います。

多国籍国民が多いオーストラリアやシンガポールでの日々を体感し、国際的感覚を培う契機ともなるなど、また日本を離れての生活から、自律性の重要性を確認する機械になるなど、大きな収穫があったと思います。

日本の外へ出て、異文化交流を体験するなどの、参加学生が過ごされた貴重な日々を蔭で支えた引率教員各位、そして、その円滑運営に労を惜しむことなく支援された保健学科教職員各位には心からの敬意を表します。本当にお疲れ様でした。

本プロジェクトは発足以来、着実に成果を上げて来ているのを実感させていただいております。今後は更に緊密な連携の中で、カーティン大学との学術交流や大学院生相互間の交流等へと進展していくことを念じております。また、シンガポールでの医療機関等との友好的な関係を深めながら、この夏季海外研修プログラムがより一層の輝きを放っていくことを祈念しております。保健学科同窓会は、そんな「夏季海外研修プログラム」をこれからも支援していきます。



信州大学医学部保健学科同窓会
School of Health Sciences, Shinshu University

II. 学術交流の概要

1. 学術交流協定および学生の交流に関する覚書締結の経緯とカーティン大学交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授（現 郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長）と、カーティン大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。
- 2) 1997年3月、藤原孝之教授、楊箬隆哉教授（当時）およびゴウ・アー・チェン助手（現准教授）の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え、健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集、共同研究課題の打ち合わせを目的としてカーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折り、両大学間の、より積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。
- 3) 1998年7月-8月、藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折り、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学が信州大学との大学間学術交流に興味を示していることがわかった。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之、楊箬隆哉両教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトン・スミス教授、健康科学部長チャールズ・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョン・コール、国際教育課程担当パメラ・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。
- 5) 1999年4月、学術交流協定を締結した。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日したジョン・コール教授が、信州大学を表敬訪問し特別講義を行った。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結。同9月、宮坂敏夫教授（短期大学部長）以下教官、学生20名がカーティン工科大学を表敬訪問し、各学局の国際交流担当者と短期留学の可能性を協議した。帰国後、部長のもとに5名からなるチームを置き、プログラムの実施計画を作成した。
- 8) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生32名がカーティン工科大学にて第1回夏季留学・単位認定プログラムに参加した。
- 9) 2002年（第2回）は27名、2003年（第3回）は24名、2004年（第4回）は20名、2005年（第5回）は29名、2006年（第6回）は28名、2007年（第7回）は15名および信大附属病院看護師2名、2008年（第8回）は31名（内大学院生2名）、2010年（第9回）は19名、2011年（第10回）17名、2012年（第12回）22名、2013年（13回）21名、2014年（14回）17名、2015（15回）18名が夏期海外研修プログラムに参加した。

- 10) カーティン教員招聘：2007年1～2月、国際教育課程ディレクター パメラ・ロバーツ、2010年1月、Nursing school 講師アラン・トルク。2013年1月、Biomedical Sciences 学部 Dr マーティン。

2. 学術交流協定および教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999年4月に締結された学術交流協定および2000年8月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は、2004年4月に信州大学とカーティン工科大学の間で、「学術交流協定」および「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新され、2009年には信州大学国際交流センターを窓口とした大学間協定となり、夏期研修プログラムとカーティン教員招へいが医学部保健学科とカーティン大学英語センター (Curtin English Language Center, CELC) ・健康科学部により企画・実施され、両校の交流は一層親密に深められることになった。また、本協定に基づき、信州大学はカーティン大学から短期留学生 (学部) を受け入れている。

教員と学生の交流に関する協定書 (2015.4 Curtin University of Technology)

<p style="text-align: center;">STUDENT EXCHANGE AGREEMENT</p> <p style="text-align: center;">Between</p> <p style="text-align: center;">CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY, Perth, Western Australia (trading as Curtin University)</p> <p style="text-align: center;">And</p> <p style="text-align: center;">SHINSHU UNIVERSITY, Nagano, Japan</p> <p>Curtin University of Technology, trading as Curtin University (hereinafter referred to as 'CURTIN') and Shinshu University (hereinafter referred to as 'SHINSHU') agree to the following terms.</p> <p style="text-align: center;">DEFINITIONS</p> <p>In this Agreement, unless the context will otherwise imply:</p> <p>HOME institution means the institution at which the student intends to graduate; HOST institution means the institution that has agreed to receive students from the HOME institution.</p> <p>ACADEMIC YEAR in the context of CURTIN means two semesters, from February to June (Semester 1) and July to November (Semester 2); and in the context of SHINSHU means April to August (Semester 1) and October to February (Semester 2).</p> <p>EXCHANGE STUDENTS means students attending the HOST institution with no requirement to pay tuition fees to that institution and where reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for enrolment students from the HOST institution in exchange, subject to the conditions outlined in this Agreement.</p> <p>STUDY ABROAD STUDENTS means students attending the HOST institution on a full fee-paying basis, where no reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for enrolment students from the HOST institution.</p> <p>EXCHANGE PROGRAMS refers to students undertaking study at the HOST institution either as Exchange or Study Abroad students.</p> <p>CLINICAL PRACTICE refers to activities undertaken by students as part of their enrolled course requirements to develop their professional competencies in working with clients. Clinical practice necessarily involves intervention requiring substantial specialized knowledge, judgement and professional skill, and at all times will be conducted under the supervision of qualified staff.</p>	<p style="text-align: center;">SIGNATURES</p> <p>This Agreement constitutes the entire Agreement between the parties. There are no understandings, agreements, or representations, oral or written, not specified herein regarding this Agreement. No amendments, consent, or waiver of terms of this Agreement shall bind either party unless in writing and signed by all parties. Any such amendment, consent, or waiver shall be effective only in the specific instance and for the specific purpose given. CURTIN and SHINSHU by the signatures of their authorised representatives below, acknowledge having read and understood the Agreement and agree to be bound by its terms and conditions.</p> <p>Signed for and on behalf of SHINSHU UNIVERSITY</p> <p><i>Kiyohito Yanasawa</i> President Dr Kiyohito Yanasawa Date: April, 10, 2015</p> <p>Signed for and on behalf of CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY</p> <p><i>Neeraj</i> Deputy Vice-Chancellor International Date: 10.4.15.</p>
---	--

3. シンガポールおよびネパール短期留学プログラムの発足と国際交流委員会へ名称変更

2014年には、シンガポールおよびネパールの夏期海外研修保健医療スタディツアーのプログラムが加わった。これに伴い、2014年4月より委員会名が、カーティンプログラム実施委員会から保健学科国際交流委員会に名称変更された。

シンガポール保健医療スタディツアーは、理学療法専攻 (応用理学療法学) の Goh Ah Cheng 准教授が Singapore General Hospital : SGH での講義や活動を継続していたことから交流があり、学生の研修を含めて協定を結んだ。2014年 (1回) 7名、2015年 (2回) 17名が夏期海外研修プログラムに参加した。

ネパール保健医療スタディツアーは、看護学専攻広域看護学領域の奥野教授（公衆衛生看護）がかねてより現地のNPO活動を支援してきたこと、学生からの渡航訪問希望が継続していたことから、プログラムが発足した。2014年（1回）5名が夏期海外研修プログラムに参加した。2015年4月25日のカトマンズ付近を震源とするネパール地震の発生をうけ、予定されていた2015年のプログラムは中止とした。

学生の交流に関する協定書（2013.Singapore Health Services PTE Ltd.）

**MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
FOR THE DEVELOPMENT OF ACADEMIC COOPERATION**
Between
**SINGAPORE HEALTH SERVICES PTE LTD ("SINGHEALTH")
SINGAPORE**
And
**SCHOOL OF MEDICINE, SHINSHU UNIVERSITY
NAGANO, JAPAN**

In furtherance of their mutual interests in the field of education and research and as a contribution to increased international cooperation, SingHealth, through its Group Allied Health, and Shinshu University, through School of Medicine agreed that:

1. The parties will:
 - i) cooperate in the exchange of information relating to their activities in teaching and research in fields of mutual interests;
 - ii) promote appropriate joint research projects and joint courses of study, with particular emphasis on internationally funded projects;
 - iii) endeavour to encourage students and staff to spend periods of time in the host institution. The exchange of students will be dependent upon the execution of a formal Student Exchange Agreement mutually agreed between the parties in writing prior to commencement of this activity;
 - iv) conduct cultural projects, as mutually agreed in writing between the parties, prior to commencement of this activity;
 - v) conduct study tours, as mutually agreed in writing between the parties, prior to the commencement of this activity;
 - vi) provide Study Abroad opportunities at undergraduate and graduate level as mutually agreed in writing between the parties prior to the commencement of this activity.
 2. The aim of the Memorandum of Understanding shall be to achieve a broad balance in the respective contributions and benefits of the collaboration, and this shall be subject to periodic review by both parties.
 3. The coordinators from the parties will prepare an annual joint report on activities in the areas of cooperation under this Memorandum of Understanding.
 4. In the implementation of specific cooperative programs, a written agreement covering all relevant aspects including funding and the obligations to be undertaken by each party will be negotiated, mutually agreed and formalised in writing, prior to the commencement of the program.
- As such this Memorandum of Understanding does not of itself create any legal obligation of any kind on either party to undertake the collaboration described herein.
5. This Memorandum of Understanding will take effect from the date of its signing and shall be valid for a period of five years from that date unless sooner terminated, revoked or modified by mutual written agreement between the parties, and may be extended by mutual written agreement.
- Either party may terminate the Agreement at any time during the term by the provision of three months written notice to the other party.

- 6A.1 A Party in receipt of Confidential Information from the other Party shall not use or disclose the other Party's Confidential Information without that other Party's prior written consent other than (i) for the purposes of carrying out this Memorandum of Understanding, provided any disclosure is only to such of the receiving Party's personnel or to its related company and its personnel who need to know and who are made subject to the confidentiality requirements of this Memorandum of Understanding or (ii) as required by law.
- 6A.2 Confidential Information means (i) terms of this Memorandum of Understanding and (ii) all information (in whatever form) disclosed by one Party to the other, whether before or after the date of this Memorandum of Understanding but excludes information which (a) is or becomes public knowledge other than through a breach of this Memorandum of Understanding (b) the recipient can show to the discloser's reasonable satisfaction to have been in the recipient's lawful possession prior to disclosure or (c) the recipient can show to the discloser's reasonable satisfaction to have been lawfully received from a third party not obliged to keep that information confidential.
- 6A.3 Subject to Clause 6A.6, the Parties shall not make any public announcement in relation to this MCU without first obtaining the approval of the other Party.
- 6A.4 Subject to Clause 6A.6, each Party shall not use any name, logo, trade name, trademark, service mark or other symbol associated with the other Party without the prior written consent of the other Party.
- 6A.5 Each Party shall respect the intellectual property of the other Party.
- 6A.6 Notwithstanding anything to the contrary in this Clause 6A, Shinshu University shall be entitled to communicate the existence of this Memorandum of Understanding in its internal communication (including in its website and in-house publications).

IN WITNESS WHEREOF, the parties hereby affix their signatures on the date and place first above mentioned.

Signed by _____)
Name: Prof. Dr. Yoshimitsu Fukushima)
Designation: Dean, School of Medicine)
duly authorised to sign for and on behalf of:)
SCHOOL OF MEDICINE, SHINSHU UNIVERSITY)
in the presence of:)
Name: Prof. Masayoshi Ohira)
Signature: Masayoshi Ohira)

Yoshimitsu Fukushima
Signature
Date: Aug 9, 2013

Signed by _____)
Name: A/Prof Celia Tan)
Designation: Group Director, Allied Health)
duly authorised to sign for and on behalf of:)
SINGAPORE HEALTH SERVICES PTE LTD)
in the presence of:)
Name: Ms. Tan May Yan)
Signature: Ms. Tan May Yan)

Celia Tan
Signature
Date: Aug 20, 2013

Ⅲ. 信州大学医学部保健学科の国際交流プログラム概要

1. プログラムによる育成人材像および達成目標

1. 他国の人々と協同して活動ができるように英語コミュニケーション力を高め、国際社会に貢献できる人材を育成する。
2. 英語による学習から、異文化交流の意義と魅力を体感する。
3. 異文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
4. 卒前・卒後教育、臨床の機会を自ら国外にも求め、国際的に活躍できる医療従事者を育成する。
5. 海外への大学院留学や日本に留学した学生などと、英語を用いて共同研究ができる人材を育成する。

2. 国際交流プログラムの全体

1. 大学間学術交流協定に基づくオーストラリア・カーティン大学 (Curtin University) 夏期海外単位認定プログラム
カーティン大学や医療機関での学習および現地ホームステイを中心とする体験プログラム
2. 信州大学—ネパール連邦民主共和国夏期海外研修保健医療スタディーツアープログラム
ネパール、カトマンズ他の地域において NPO 活動と現地住民との関わりを中心とする体験プログラム
3. 信州大学—シンガポール共和国夏期海外研修保健医療スタディーツアープログラム
シンガポールの主に医療機関でのレクチャーおよび見学を中心とする体験プログラム

IV. 信州大学-Curtin University

大学間学術交流協定に基づく夏期海外単位認定プログラム



信州大学 - Curtin



1. カーティン大学の概要

1. 設立

- 1) 1967年：The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設。
- 2) 1987年：Curtin University of Technology (カーティン工科大学) となる。
- 3) 2010年：Curtin University (カーティン大学) となる。

*カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、非英語圏のみならずアメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

2. 位置

- 1) 西オーストラリア州
- 2) メインキャンパスはパース (Perth: 西オーストラリア州の州都。人口約 120 万) の郊外ベントレー (Bentley: 中心部より 10 キロ南東へ位置、海岸まで車で 20 分) に立地し、他に Perth 中心部の大学院キャンパスとその他のキャンパス (海外を含む) を有する (Kalgoorlie, Margaret River, Northam, Perth, Shenton Park, Sydney; Malaysia, Singapore) .

Address: Kent Street, Bentley, WA6102, Perth, Western Australia

Tel : 08-9266-9266, HP-address: <http://www.curtin.edu.au/>

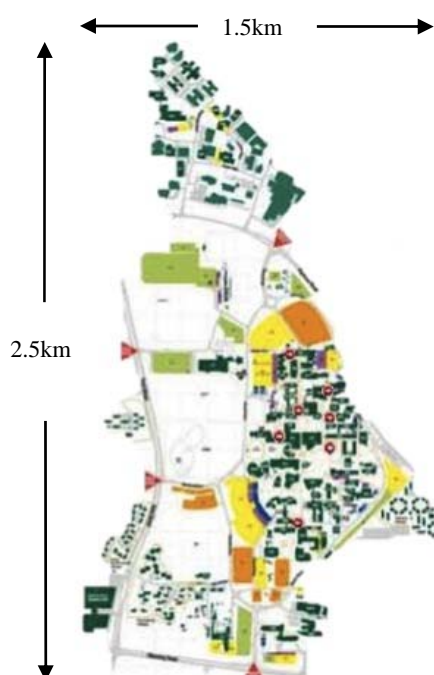
3. 学部等

- 1) 学部：経営学部、健康科学部、人文学部、理工学部、先住民研究
- 2) 大学院：経営学、健康科学、人文科学、理工学

4. 学生数 (2011 年) および

教職員数 (2011 年)

- 1) 学生数： 63,321 人
うち、通信教育課程 16,326 人
現地留学生： 10,365 人
在外留学生： 9,147 人
(オーストラリア外キャンパス、センター在籍)
- 2) 教員数： 1,533 人
- 3) 職員数： 1,863 人



2. 平成 27 年度夏期海外単位認定プログラム

1. はじめに

信州大学-カーティン大学間学術交流協定にもとづき、平成 27 年度夏期海外単位認定プログラムが平成 27 年 8 月 8 日から 8 月 22 日の約 2 週間にわたり、カーティン大学およびパース市内外の関連施設・病院で実施された。本年のプログラムには 18 名の信州大学医学部保健学科学生が参加した。

カーティン大学での単位認定プログラムの実施にあたり、5 月から 7 月にかけて、単位認定プログラム全般のオリエンテーション、研修内容の説明、研修関係資料の配布と事前学習の説明が 7 回行われた。

2. 夏期海外単位認定プログラム

- 1) 目的：他大学・文化での学習・生活体験を通じ、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
- 2) 本学における単位認定：国際医療協力論の単位として認定する。単位認定には、信州大学、カーティン大学における全てのプログラムに参加することとし、研修レポートの提出が必須である。

3. 研修期間

平成 27 年 8 月 8 日（金）～8 月 22 日（土）、15 日間

4. 研修場所

- 1) 研修キャンパス；カーティン大学ベントレーキャンパス
- 2) 見学施設

看護学専攻

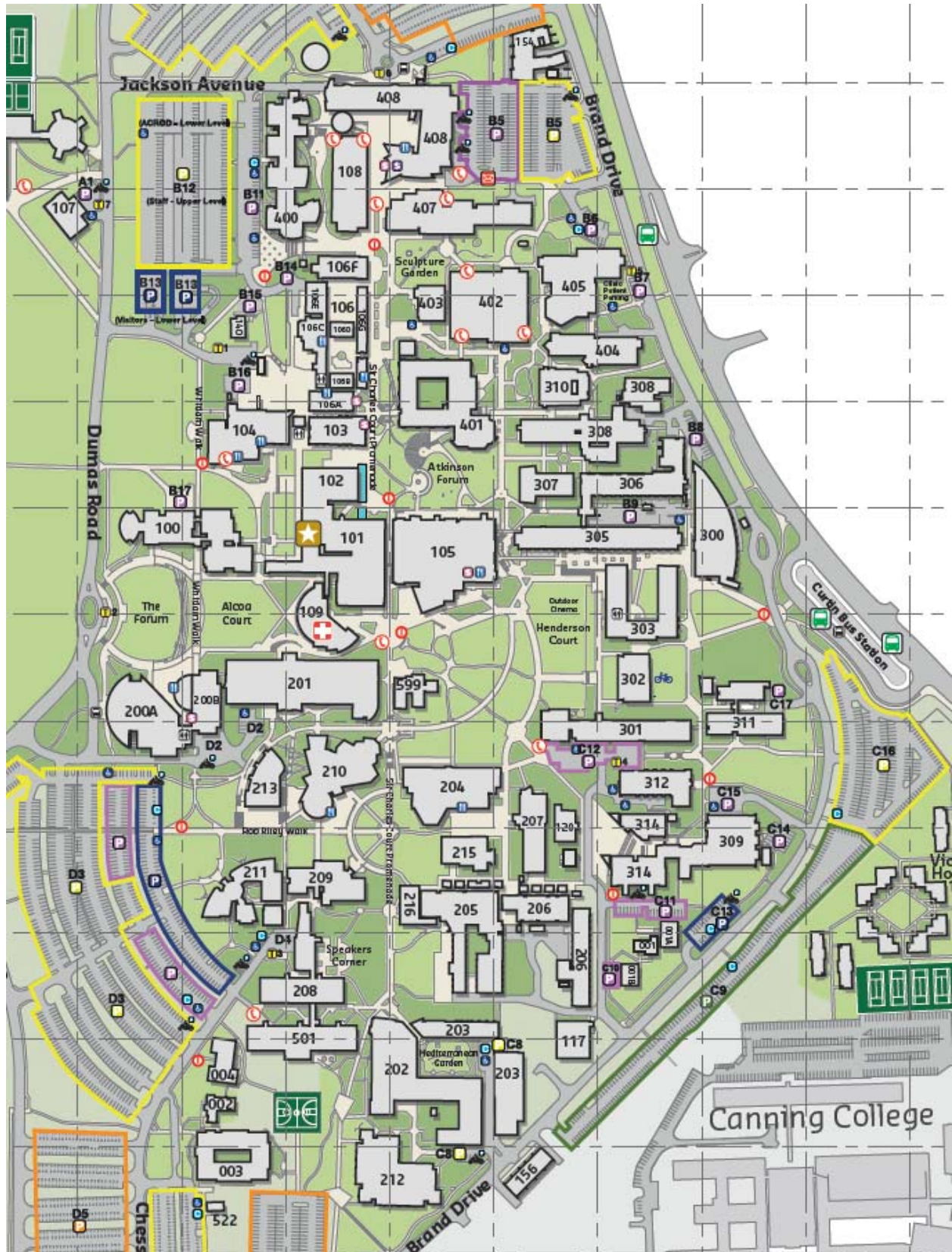
Regent' s Garden Aged Care Facility, Perth

King Edward Memorial Hospital, Perth

理学療法学専攻・作業療法学専攻

Life Care Physiotherapy Clinic, Wembley

Fiona Stanley Hospital Rehabilitation Center



5. 研修プログラムの内容 (Curtin University)

第1週 ; Orientation & English Class/Hospital Communication for Health Professional

- ・オリエンテーション
- ・英語および医療英会話の授業
- ・キャンパスツアー、看護・理学療法・作業療法の各学科訪問見学
- ・保健医療領域の合同授業
- ・現地で日本語を学ぶ学生との交流
- ・遠足 (スワン・バレー)
- ・施設見学 (全専攻共通) : The Niche (Independent Living Centre), Nedlands

第2週 ; Combined Lectures/ Tutorial, Practice, Clinical Visits & Graduation Ceremony

- ・専攻別専門領域の授業
- ・アボリジニの文化とライフスタイルについての授業
- ・現地で日本語を学ぶ学生との交流
- ・施設見学
 - ① Regents Garden Aged Care Facility, Aubin Grove
 - ② King Edward Memorial Hospital, Subiaco
 - ③ Lifecare Physiotherapy Clinic, Wembley
 - ④ Fiona Stanley Hospital, Murdoch
- ・修了式

6. 参加人数

看護学	:	8名 (1年生2名、2年生3名、3年生3名)
理学療法学	:	8名 (2年生8名)
作業療法学	:	2名 (2年生2名)

合計	18名
----	-----

7. 担当教員

引率 : 石田文宏 教授、山崎浩司 准教授

国内・学内サポート : 国際交流委員会 (奥野、大平、相良、埴原、川船(学務第二))

8. 研修費用

1) 研修費用 【内訳】

・往復航空運賃*	151,830円
・国内移動費	約14,000円
・その他	
保険料	5,950円
・特別プログラム授業料等	179,600円
英語クラス、保健学共通講義、専門別(看護、理学療法・作業療法)講義・実習、施設見学(含む移動費用、指導支援費用)、緊急事故支援システム料、滞在費(2週間(ホームステイ、食事込))	
計	351,800円

*往復航空運賃は個人購入を行ったため、平均値を示した。

現地プログラム担当教員2名分の航空運賃、宿泊費は27年度信州大学知の森未来プロジェクト戦略的経費と保健学科同窓会寄付金等から計上された。

2) 研修支援

平成27年度夏期海外単位認定研修は、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の平成27年度海外留学支援制度（短期派遣）に応募、採択された。参加学生18名のうち、審査基準に則り18名全員に7万円の奨学金が支給された。

9. リスク管理体制

2011年2月のニュージーランド地震時の日本人留学生被災等を踏まえ、平成23年度からは、信州大学が正会員となっている特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会（The Japanese Council for the Safety of Overseas Studies; JCSOS）の緊急事故支援システムに加入し、研修中の不慮の事故に対するリスク管理体制を強化した。本年度も当支援システムに継続して加入のうえ、プログラムを実施した。加えて、学生・教員全員が同じ旅行保険に加入した。

10. 研修日程

研修期間：平成27年8月8日（土）～8月22日（土）の約2週間

詳細は「3. 研修プログラムの詳細」参照。

出発 8月7日（金）

20：15 頃 羽田空港着 国際線ターミナルAカウンター集合

22：55 羽田発 シンガポール航空 SQ635 便

8月8日（土）

05：00 シンガポール着

07：45 シンガポール発 シンガポール航空 SQ213 便

12：50 パース国際空港着 各自入国審査、検疫を済ませる

14：00 頃 バスでカーティン大学へ移動

14：30 頃 カーティン大学でオリエンテーション

15：00～16：00 ホストファミリーと一緒にホームステイ先に移動

帰国 8月22日（土）（8月21日（金） キャンパスでオンライン・チェックイン）

10：15 カーティン大学（Taxi Stand 3）に集合

10：45 パース国際空港（大学からチャーターバスで移動）

14：05 パース発 シンガポール航空 SQ226 便

19：30 シンガポール着（シンガポール・プログラム参加者：山崎先生と合流）

22：35 シンガポール発 シンガポール航空 SQ636 便

8月23日（日）

06：35 成田着

入国検査、検疫など終了後、解散

3. 研修プログラムの詳細



Teacher: Rika Wylde

Week 1

ALL STUDENTS							
Time	Saturday 8 August	Monday 10 August	Tuesday 11 August	Wednesday 12 August	Thursday 13 August	Friday 14 August	Saturday 15 August
AM	<p>Arrive Perth SQ213 12.50pm</p> <p>Bus from airport to Curtin; Homestay orientation and meet host families</p>	<p>9 – 12 <i>Orientation program</i></p>	<p>10 – 12 English Class: Introduction to Australian Culture 216.118</p>	<p>10 – 12 English Class: communication skills 501.116</p> <p>11.30 – 12 <i>Robertson Library tour – meet at the inquiries desk, level 2</i></p>	<p>10 – 12 Class: English for health professionals; preparation for excursion 201.504C</p>	<p>Excursion: Swan Valley:</p> <p><i>Caversham Wildlife Park: 10-11 Molly's Farm show; 1-1.45 Margaret River chocolate factory; 2-2.45 Sandalford Winery</i></p> <p><i>Bus depart Curtin: 9.00</i></p> <p><i>Bus depart Sandalford: 3.00</i></p>	<p>Excursion to Rottnest Island (Shinshu University arranged excursion)</p>
Lunch							
PM	<p>2 – 3pm 501.102</p>	<p>1 – 3 Orientation program visit: familiarisation with local shopping centre and supermarkets</p>	<p>1 – 3 Class: English for health professionals 201.504C</p>	<p>12.20 – 1.30 Event: Rakugo Performance/ Curtin Japanese Club</p> <p>Tour of faculty facilities</p> <p>1 – 1.45 Nursing, Bldg 405, level 3, meet Nicole Smith</p> <p>1.45 – 2.45 Physiotherapy, Bldg 408, level 3, reception</p> <p>1.45 – 2.45 Occupational Therapy, Bldg 401, reception</p>	<p>1.30 – 3.00 Field trip The Niche (ILC)</p> <p>1.30 – 2.30: <i>Assistive Equipment Service</i></p> <p>2.30 – 3: <i>Technology AES Service, Nedlands</i></p> <p>(ALL STUDENTS)</p> <p><i>Bus depart Curtin: 12.45</i></p> <p><i>Bus depart The Niche: 3.15</i></p>		

Week 2

NURSING												
Time	Monday 17 August	Tuesday 18 August	Wednesday 19 August	Thursday 20 August	Friday 21 August	Saturday 22 August						
AM	10 –12 <i>**Indigenous Health & Culture Workshops</i> Topic: TBC	10.30 – 1.30 <i>Advanced Wound Care (Lecture)</i> Contact: Joy Sears Topic: <i>Surgical & Traumatic Wounds</i> Building 307.102:LT	8 - 10 <i>Fundamentals of Nursing Practice (tutorial)</i> Contact: Rebecca Timperley Topic: TBC Building 300.221:CT 4 students 10 - 12 <i>Fundamentals of Nursing Practice (tutorial)</i> Contact: Rebecca Timperley Topic: TBC Building 300. 221:CT 4 students	10.30-11.30 Field trip Nursing: Regents Garden Aged Care Facility, Aubin Grove (Ms Potchana Sengsakoo) Bus depart Curtin: 9.45	10 – 12 English class – debrief and evaluations 501.116C	Depart Perth SQ226 14.05pm Bus from Curtin to Airport						
	<table border="1"> <tr> <td>201.514 A</td> <td>3 students</td> </tr> <tr> <td>201.309</td> <td>3 students</td> </tr> <tr> <td>201.517</td> <td>2 students</td> </tr> </table>						201.514 A	3 students	201.309	3 students	201.517	2 students
	201.514 A						3 students					
201.309	3 students											
201.517	2 students											
Lunch												
PM			12.15 – 1.15 Language Exchange with Curtin Japanese Club members	1.30-2.30/3 Field trip Nursing: King Edward Memorial Hospital, Subiaco (Ms Bev Thornton) Bus depart KEMH: 3.00	12 – 2 Graduation Lunch 104.102							

PHYSIOTHERAPY		OCCUPATIONAL THERAPY				
Time	Monday 17 August	Tuesday 18 August	Wednesday 19 August	Thursday 20 August	Friday 21 August	Saturday 22 August
AM	8 – 10 Orthoses Lab Building 108.119	11 – 12 PT & OT students Tour of Student Health and Wellness Clinic Physiotherapy, Bldg 408, level 3, reception 5 – 6pm Neuroanatomy and pathology lecture Building 408.1019	Free time	Free time	10 – 12 English class – debrief and evaluations 501.116C	Depart Perth SQ226 14.05pm Bus from Curtin to Airport
Lunch	2 – 4 Physical Rehabilitation Lab Building 108.208					
PM	2 – 3 pm Basic Physio Practice Lecture Building 213.104 3 – 6pm Cardiopulmonary Science Lecture Building 408.1019		12.30 – 1.30 Field Trip Physiotherapy Occupational Therapy; Lifecare Physiotherapy Clinic, Wembley (Mr Craig Elliott) Bus depart Curtin: 11.45 Bus depart Lifecare: 1.45	1.30 – 2.30 Field trip Physiotherapy Occupational Therapy; Fiona Stanley Hospital - Rehabilitation , Murdoch (Mr Tristan Fraser) Bus dept Curtin: 12.45 Bus dept FSH: 2.45	12 – 2 Graduation Lunch 104.102	



4. 学生アンケート (N=20)

1. 出発前の準備

①費用の捻出

	N
家族が全額負担	6
自己資金のみ	4
自己資金と家族の支援	6
その他	2

④参加申し込み締め切り期限

	N
適切	15
不適切	3

② 渡豪前の自己学習

	N
自己学習した	14
何もしなかった	6

⑤オリエンテーション時期・回数

	N
適切	17
不適切	1

③プログラムの発表時期

(4月の新入生・在校生オリエンテーション)

	N
適切	16
不適切	1

⑥オリエンテーション内容

	N
適切	17
不適切	1

一部無回答を含む

【参加動機】

- ・もともと留学に興味があり、保健学科にこのプログラムがあっただけでちょうど良いと思い、参加を決めた。また、ホームステイは学生のうちしかできないと思い、経験したいと思った。
- ・ホームステイを経験してみたかったことと、外国の大学で学んでみたかったこと。
- ・国際医療に興味があり、このプログラムに参加して国際医療を学び、異文化体験をすることで自分の視野を広げたいと思った。
- ・日本の理学療法に比べて、歴史の長いオーストラリアでの教育や、施設に興味があったのと同時に、海外での理学療法士の姿を見てみたかった。
- ・今まで海外に行ったことがなかったので、この研修プログラムを利用して、海外に行き、広い視野を持ちたいと思ったから。語学力を向上させたいと思った。
- ・元から海外に興味があり、入学前からカーティン大学の留学のことが気になっていた。知らないことを知っていくことが好きなので申し込ませていただいた。
- ・海外へと行き、英語でほかの人と会話がしてみたかったことが昔からあって、病院なども見られて、ホームステイ出来ることはいい機会であると感じた。
- ・海外の医療や文化に興味があったのと、初海外だったためある程度プログラム日程やオリエンテーションなどでやり方を教えてもらえるほうが安全だと思った。
- ・海外の医療の様子を見てみたかった。語学の勉強。

- ・ オーストラリアのPTに興味があったし、ホームステイしてみたかったから
- ・ 海外で働くことを考えているから。
- ・ 海外の医療に興味があったため。また、ホームステイなどは今しかできないことだと思い、英語力向上のためにも経験してみたかったから
- ・ 中高で、海外語学研修があり、とても価値観が変わり積極的になれる良い経験となりました。今回、医療に特化したプログラムということで、興味を持った今から行動を起こすべきだと1年生ではありますが参加しました。
- ・ 国際医療協力論の授業などで海外の医療について座学として勉強してきたが、やはり実際に見て勉強したいと考えたから。又、初めての南半球へのトリップであり、オーストラリアには特有の生き物がたくさんいると聞いていたので、その生き物たちを見たかったから。同時に南十字星も見たいと考えていた。
- ・ 海外の理学療法の実状を知りたかったから。また、英語を使って多文化に触れたかったから。
- ・ 海外の理学療法がどのようなものであるかを見たかったのと英語技術を向上させたかったから。
- ・ 純粋に楽しそうだなと興味を持ったため。また、留学という大きな経験をしたかったため。
- ・ 海外の医療に興味があったから。

【事前学習した内容】

- ・ オーストラリアの概要や医療について調べた。
- ・ 英語（×2）
- ・ 英会話の練習。
- ・ 英会話や英語に慣れるため、英語の動画を見た。英語の勉強を少しした。
- ・ 英会話の勉強として外国語サロンに数回参加した。
- ・ オーストラリアの文化や英語の簡単な会話。
- ・ 英語リスニング。
- ・ TOEFL の勉強と、前期にやった医療単語の復習をしました。
- ・ リスニング・オーストラリア（パース）で有名なもの。
- ・ 英語の勉強をしました。
- ・ 英語、筋の起始停止。
- ・ 英単語、カーティン大学について。
- ・ 現地の医療についてと簡単な英会話

【事前学習が必要と感じた内容】

- ・ オーストラリアの福祉について。
- ・ 医療英語。
- ・ 英語の勉強。
- ・ 医療英語や、日常会話をもう少し勉強しておけば良かった。
- ・ 専門用語の英単語
- ・ 英単語や日常的な会話についての学習。

【プログラムの発表時期】

- ・ 3週間。

【参加申し込み締め切りのコメント】

- ・ 5月。少し早すぎると思った。

- ・もう少し後でもいいと思った。行きたかったけど申し込み間に間に合わなかった人がいた。
- ・もう少し、時間帯など色々な人がガイダンスに参加できる環境を設けたうえで、参加申し込みを募るべきだと思います。

【オリエンテーション時期のコメント】

2. ホームステイについて

	非常に不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	非常に満足
①費用について		1	7	5	5
②交通の便について			5	4	9
③食事について		2		6	10
④ホストファミリーについて		2		5	11
⑤全体の満足度		1	1	6	10

(1) よかったこと

- ・オーストラリアの家庭での生活について学ぶことができたこと。会話が英語なので、英会話についての勉強になり、英語力の向上につながったと思う。
- ・オーストラリアの生活味わうことができた。とくに食事。また英語だけの生活ができたのが良かった。
- ・自分と違う文化の人たちと暮らすことで、自分の視野を広げることができたと思う。
- ・家族の中に加わることで、自然と英語での会話を耳に入れるため、英語になれることが出来てよかった。さらに、食事や買い物、生活を通して、文化の違いをじかに感じる事が出来て、面白かった。
- ・オーストラリアの生活を知ることができた。ネイティブの英語に触れることができた。
- ・日本とは違い、オーストラリアでは宗教が生活に与える影響が大きいということを知った。そのため、ヘンダーソンの14項目の中に宗教が入る意味が分かった。また、家族どうしの仲がとてよく、スキンシップをしていたり食事の感想を言ったりして、家族の大切さを改めて感じた。
- ・外国の本当の食文化や生活習慣などはホームステイでなければ体験できないことであり、非常に良かったことであると感じている。
- ・英語をいやでも話さなくてはいけない状況にいてことで英語を話す力が上がる。
- ・ほかにも留学生がいたため、ほかの国の文化を知ることができた。
- ・オーストラリアの文化を肌で体験することができる。
- ・ご飯作ってくれたため、慣れない生活でも健康が保たれた。
- ・言葉が通じることの便利さを感じたと同時に、言葉が通じなくても気持ち次第で良い関係が作れるということが分かりました。
- ・特に英語で自分の気持ちを的確に表すことはとても難しかったです。
- ・今回ホームステイで文化が違うというのはこういうことなのかということを感じられたし、英語を話せるということの重要性を感じた。また、かといって黙っているのではなくかたことながらでもコミュニケーションをとろうとすることは大切なことであると感じた。
- ・オーストラリアでの人々の生活のスタイルや文化がわかった。
- ・言語面における向上がはかれた。

- ・人とのつながりをつくることができた。
- ・コミュニケーションをとることや、英語の聞き取りが上達したこと。また、海外の方の暮らしや文化と一緒に暮らすことで体感できたこと。
- ・以前ホームステイした所とはまた違った待遇を受けたので、違った外国の人を知る、良い勉強になった。性格がなかなか合わず、患者でそういった方がいたときどうするか、など自分に課して関わられた。発音をたまに指摘してくれたので、ただし発音ができるようになってきた。なんでも気になったら、調べてでも聞こうと決めたので、知らない英語を知る機会となった。
- ・わたしにとって初めてのホームステイだった。ホームステイ調査用紙に「パンよりも米の方が好きだ」と書いたということもあり、日本人のホストマザーがいるところになった。まず、ホストファミリーが大変親切で、私の拙い英語での話にしっかり耳を傾けてくれ、2週間しかいないのだからと言って、いろいろなところへ週末に連れて行ってくれたこと。
- ・オーストラリアの一般家庭における文化（食事など）を体験できたし、2週間の滞在だけでは気づけないようなオーストラリアと日本の違いをホストマザーから教えてもらうことができたこと。
- ・英語を使うことは思った以上に難しく自分の思ったことを伝えるのは大変でした。しかし、ホストファミリーは一生懸命話を聞いてくれてとてもうれしかったです。
- ・日常での会話がすべて英語で英語に触れる機会が増えたことと、海外の家庭を体験できたこと。
- ・英語でコミュニケーションをとることの楽しさを実感できた。異文化交流ができた。
- ・異文化の人と英語で生活することができ日本との違いを学べた。

(2) 困ったこと

- ・特にありません。（×3）
- ・自分の言いたいことをうまく言えないことがあったがジェスチャーを交えたりしてがんばった。
- ・英語が十分に話せなかったため、思うようにコミュニケーションをとることができなかった。
- ・私以外に同年代くらいの男子留学生が三人いることを前もって知りたかった。
- ・食事を別々の席で食べるときがあり、自分はどこに座って食べればいいのかわからない時があった。また、聖書について夜遅くまで教えてくれた時。
- ・家族が喧嘩をしていて、何に対して怒っているのかもわからないことがあって、困ったが、日本の家でも喧嘩はあることであるのではないかと感じる。
- ・毎日のお風呂がシャワー5分であるため、とても急がなくてはいけない。
- ・日本でいう、行ってきます、行ってらっしゃい、ただいま、おかえりなさいをどうすればいいのか分からなかった。
- ・英語が聞き取れない、うまく伝えられない、会話に参加することが難しい
- ・一番初めの土日で上手に意志を伝えられなかった。
- ・昼食を作らなければいけないことを知らなかったこと。よって、最初の数日は昼食を当然のようにCAFÉで買っていた。上記にも書いたが、ホストマザーの仕事の時間帯と私がかに家にいる時間がかなりかぶっていたこと。
- ・日本的な生活であった（例えば、お米を食べるや靴を脱いで家に入る）ので、あまり困ったことはなかった。しかし、ホストファミリーに会えたのは最後の2日間だけであった。そのため、オージーの詳しい文化については少ししか聞くことができなかった。
- ・ホストファミリーは忙しくて家にいることが少なかったので寂しかったです。また、ご飯が合わなくて困りました。
- ・日本語が通じないので英語の解釈が間違っていたら、誤解したままでいてしまうこと。
- ・お菓子やデザートが量が多かった。
- ・自分の英語力不足で言いたいことが言えなかった。

(3) ホームステイに関する要望

- ・特にありません (×3)
- ・事前に聞いていた情報と異なったこと。それで困ったことはなかったが、正しい情報がほしかった。
- ・もう少しどこかに連れて行ってほしかったのと、ホストマザーの仕事が忙しく帰りが遅いことなどがあった。
- ・とても親切なホストファミリーだったので、大きな音大はなかったが、もう少し、ホストファミリーと過ごす時間が長いとよかった。
- ・休日は、教会以外に連れて行ってもらいたかった。
- ・ホームステイに対するしては、非常に満足しているため、特になし。
- ・ホームステイ先の変更が直前で起こるととても焦るのでできるだけ早めに決定してくれると助かります。それでも、現地でホームステイに対する相談もできてよかったと思います。
- ・本物の家族のように扱ってくれること。
- ・ホームステイをするからには、きちんと時間を取れる余裕を持ったうえで引き受けてほしい。
- ・できることなら、ホームステイ中にどこかへ行ってほしくない。私たちが滞在する期間には限りがあるので、その期間中だけでも家族全員で私たちを迎えてくれるとうれしい。
- ・もう少し、ホストファミリーと過ごす時間をとりたかったです。
- ・各ホームステイ先で問題が発生した際に迅速に対応できるようにしてもらいたい。

(4) 全体としての満足度がやや不満だったその具体的内容

- ・朝と夕方以降のホストマザーの仕事によって、独りで家にいることが多かった。夜ご飯は基本、ホストマザーが仕事に行く5時くらいにスープを飲み10時過ぎにご飯といった感じだった。飲み物などは自由にさせてくれたが、全体的にごはんが遅く、その後シャワーを浴び、あまり話す時間もなくてホストマザーは就寝している、ということも何日かあった。仕事がない日は(1週目が割とそうだった)散歩に行ったり、買い物したり、一緒にTV番組を見たので、ホストファミリーとなるならもう少し改善してほしい。また、たまに帰ってくる娘夫婦に気を使い部屋に戻ることも多かった。仲が良いのは良いが、居づらい空気はやめてほしい。

3. 研修コースについて

(1) 英語および医療英語の授業について

	非常に不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	非常に満足	無回答
①英語の授業を設けたことについて		2	4	7	4	1
②始業時間、授業の時間について		3	2	9	3	1
③授業の内容について	1	4	3	8	1	1
④授業のレベルについて	1	3	5	7	1	1
⑤全体としての満足度		5		8	4	1

*全体としての満足度がやや不満または非常に不満だったその内容

- ・英語クラスの内容が、医療英語ではなく、中学レベルの内容だったのでつまらなかった。資料に医療英語の授業だと書いてあったので期待していたが、そのような内容の英語クラスは展開され

なかった。

- ・授業の時間も少なく、医療英語の授業は全くなかった。先生も日本人で日本語で話すこともあった。また授業のレベルも中学英語レベルであった。
- ・あまり本格的な英語の授業がなかった。英語の授業というよりもほとんどがインフォメーションであったため、もっと医療英語や、日常生活で役立つ英会話などの授業があるとよかった。
- ・授業として時間が設けてあるものの、内容として決まっていなかったプログラムの補足説明が主であった授業があったのがもったいないと感じました。授業時間も短いと思ったので、もっと長くやってもいいと思いました。
- ・プログラムとしてもっと授業を受けてみたかったし、もっと施設見学に行きたかった。
- ・各プログラムの時間割をもっと効率よく作ってほしかった。(例えば1個授業があって、3時間後にもう1回授業とかはできればなくしてほしかった。11時からとかよりも9時からで早めに終わってほしかった。)
- ・医療英語を全くといっていいほど、やらなかった。やった英語も、中学初級レベルといった感じで、大学において、将来において役立つ内容ではなかった。

(2) 英語以外の授業について

	非常に不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	非常に満足
①始業時間、授業の時間について		3	3	10	2
②授業の内容について			1	13	4
③授業のレベルについて			4	12	2
④全体としての満足度			1	13	4

- ・やや不満や非常に不満というわけでないが、授業時間・教室の変更を私たち留学生にもしっかり伝えてほしかった。

(3) 施設等の見学（体験含む）について

	非常に不満	やや不満	どちらともいえない	やや満足	非常に満足
①見学の時間について			1	11	6
②見学の内容について				8	10
③見学説明のレベルについて			1	8	9
④見学施設について		1		7	10
⑤全体としての満足度				6	12

(4) 印象に残った見学先

King Edward Memorial Hospital

- ・施設内を説明を聞きながら回れてよかった。
- ・とても大きく見たことのないような施設もあり、興味深かった。
- ・日本にはないような物品や施設が整っていてすごいと思った。
- ・母性・産婦人科などに興味があること、難産だったこともあり、医療設備の広さから、14歳で出産に来る妊婦の多さや、水中出産などの知らないことも学べて、衝撃的だったから。
- ・ここは西オーストラリア州で最大の産婦人科・小児科を扱っている病院である。私は将来助産師

になりたいと考えており、たいへん良い刺激を受けたからである。低体重児や奇形で生まれてきた子どもたちが、どのようにして現在健全に過ごしているかの報告と両親の感謝の気持ちが掲示されていた。出産のときに、産婦人科医と助産師が2つ以上の命を預かるということを実感するとともに、夢への気持ちが一層強まった。

Students health and Wellness Clinic

- ・学校内にある学生の実習の一環でもあるクリニックで、通常より診療時間が長く取って学生がしっかりと考えながら、患者さんと向き合っていく環境が整っていると思います。さらに、理学療法の学生は無料で受診でき、それによって学ぶ機会を増やそうとしていることに魅力を感じました。部活等で体を痛める学生も多いと思うので、信州大学も健康安全センター内にリハビリ部門を設けてもいいのではないかと思います。
- ・大学内にあり、学生と患者が関わりを持てる有益な施設であったから。

カーティン大学の看護の施設

- ・信州大学とどこが違うのか比較しやすかったから。カーティン大学の看護の実習室は、本物の病室のようなつくりになっていて感動した。

Aged Care Facility:

- ・一番印象に残った。日本ではこのような施設を見たことがないという理由もあるが利用者の思いを一番に考えるという施設の方針が印象的であったため。（糖尿病の患者にも甘いものを食べることを許可し、薬で調節しているなど）
- ・日本では見たことのないような高級な施設で、そこで最期の時を過ごすことが出来たら幸せだと感じたため。

Niche

- ・大規模な自助具（キッチン全体の改造）やコミュニケーションエイドを実際に体験することができて楽しかった。

Physio-clinic

- ・開業権を持っているからこそその留意点や権威のある先生の physio に関する意見や考え方をきくことができ、自分にとって最も心に響いたから。
- ・日本にはない、PT が開業・経営している施設であるため
- ・P のスポーツクリニックは質問する時間をたくさん設けてくださって丁寧に答えていただけ良かったです。そしてトレーニング機器の方法も教えてくださって興味深かったです。
- ・カーティンプログラムで個人クリニックの見学先で、日本ではない開業PTの現場をみれて刺激をもらった。

ILC

- ・様々な自助具などを見ることができてとても興味が持てた。

Wellness Clinic

- ・大学内にあり、学生と患者が関わりを持てる有益な施設であったから。
- ・そこではオーストラリアがいかに理学療法の技術や考えが進んでいるかなどをみることができ、日本とオーストラリアの理学療法の違いを一番大きく感じることができました。

Fiona Stanry Hospital

- ・様々な設備が多く揃っており、最先端のリハビリ現場を見学することができた。

(5) 1 最終的に英語を使つての会話を積極的に行えましたか。

まったく積極的に 行えなかった	あまり積極的に 行えなかった	どちらとも いえない	やや積極的に 行った	とても積極的に 行った
	2		11	4

2 今後、英語力アップのため、TOEIC や IELTS などの英語試験を受けようと思いますか

まったく 思わない	あまりそうは 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
	1	6	5	6

(6) コースを通して、よかったことを自由に書いてください。

- ・海外での生活が体験でき、オーストラリアの医療について施設見学を通して学べたこと。日本の大学教育との違いを知ることができたのでよかった。
- ・まず第一にホームステイが良い経験になり、オーストラリアでの生活を体験できたのが良かった。大学に通えたのもとても楽しかった。
- ・様々な施設などを見ることができ、日本の良い所、オーストラリアの良い所などを改めて考えることができた。また、初めて海外で2週間生活してみて、英語や看護についてももっとしっかりと勉強しなければいけないと感じることができた。
- ・施設見学に行った先々でであった理学療法士の先生方に質問の時間をたくさん作っていただいたことで、とても丁寧に答えていただいたことがとてもうれしかったです。
- ・カーティン大学の看護の授業に参加させてもらって、学生の積極的な姿勢を学ぶことができた。施設見学では、日本との違いを学ぶことができた。Curtin Japanese Club のみんなと交流できたのが楽しかった。
- ・日本語はほとんど通じないという環境に行くことで、何とかして私の言いたいことを伝えたいという思いで、知っている英語を使ったり、ジェスチャーを用いて会話をするという、ノンバーバルコミュニケーションの大切さを改めて感じるすることができた。また、英語はこれからの世界では必要ということを感じたのでこれからも英語を勉強したいと思った。
- ・ホームステイであったため、海外の家庭のことを深く知ることが出来たことは非常に良かったことであると感じている。
- ・とにかくできてよかったのはホームステイです。前の項目にも書きましたが、ホームステイの経験により英語力はもちろん、ほかの国、異なった文化の中で育った人との接し方も学んだと思います。また、理学療法について、授業と病院見学によって学校内での学び方から卒業後の働き方までを知ることができたのもいい経験だったと思います。
- ・今回がはじめての海外だったので、日本とは異なる文化や医療に触れられたことはもちろん、視野が広がったように思います。
- ・physio や信大から編入した方と直接話せたこと。学生でも治療を行える機会があることを知り、その様子を見学でき、レクチャーにも参加できたこと。日本語倶楽部の人と話せて、友達も作れ

たこと。各施設の担当の先生方が私たちの質問に親身に答えてくださったこと。

homestay において Rika がささいなことでも相談に乗ってくれたこと。

- ・ オーストラリアの医療と日本の医療の相違点、一致点を知ることができた
- ・ 海外の方とコミュニケーションをとる機会が多く、楽しむことができた。
- ・ まだ、日本の状況もままならない状態ではあったが、現地に行って見る経験は勉強への意欲もわかせてくれるので、とても良い。
- ・ 専攻を問わず、先輩方と仲良くなることができてよかった。病院見学時に、私たち1年生には分からない日本との違いについて教えていただくことができた。これから日本で始まるこれからの実習の像を作り上げることができたと思う。又、ロットネスト島へのトリップでオーストラリアの大自然を体感できたことが幸せであった。またロットネスト島には行きたい。ホストファミリーと過ごしたことも良かったことである。自分の家とはもちろん違う文化を持つ家で過ごすことで、文化の違いをたくさん発見できた。全体として、発見する喜びを得られたと感じる。
- ・ 日本語を勉強している生徒と友達になることができたので英語で会話をするのができて良かったです。施設見学も興味深いところばかりでためになりました。
- ・ 外国人と実際に自分の英語で会話できたことと、様々な施設を見学できたこと。
- ・ 日本国内で学んでいるだけでは学べないようなことをたくさん学習することができた。海外に目を向けた考え方ができるようになった。
- ・ 日本とは違う海外の医療を学べたことが一番よかった。また自分の英語力を実際に試すことができたこと、海外に友達ができただけでもよかった。

(7) コースを通して、困ったことをできるだけ詳しく書いてください。

- ・ 特にありません。(×2)
- ・ 実際に大学の講義を受けて、授業の内容が全くと言っていいほど理解できなかったこと。講義内容のレジュメとかがほしかった。
- ・ 英語を用いてすべてを表現するのは難しかった。
- ・ 英語力の無さが目立ってしまい、うまくコミュニケーションをとることができなかった。
- ・ 授業の教室の場所が変わったことでの連絡がうまく伝わらず、ただただ待っているだけの時間があつた。ロットネスト島の帰りのフェリーの時間が遅く、家に帰るのが遅くなった。行きと帰りの飛行機の座席を指定で取りたかった。せっかくみんなで行ったのにバラバラの席だったので嫌でした。みんな近くで取った方がいいと思います。
- ・ 授業が難しかったり、日本ではやらないような授業があつたため、英語もよくわからず困ったことがあつた。
- ・ 自分に英語の知識が少なかつたため、最初のほうは特にホームステイファミリーと話せなかつた。
- ・ 留学期間が短く、あまりオーストラリアの人と話せなかつたこと。数少ない日本語倶楽部の人々との交流の機会が施設見学でなくなつたこと。homestay 1 日目がいきなり 1 日中 host family と過ごさねばならなかつたこと。
- ・ 施設見学などで、通訳がないとわからないことが多かつた
- ・ 困ってはいないが、リカの訳がないと、分からないことが多かつた一方、頼りすぎて英語を身につける機会にならなかつたこと。
- ・ とても個人的なことであるが、Wi-Fi につなぐことができなくて困つた。誰とも連絡が取れず、授業内容の変更や宿題を知るのがいつも一日遅れになってしまつたこと。
- ・ ホストファミリーと過ごす時間が短かつたのがとても寂しがつたです。
- ・ オーストラリアのバスで間違えた方向に乗つてしまい、ホストマザーに電話した時にうまく英語で説明できなかつたこと。

- ・授業が突然休講になったり、授業の詳細が当日になるまでわからなかったり、と専門の授業に対する対応が遅かった。
- ・自分の英語力不足により会話が上手く伝わらなかったり、言っていることが理解できなかったこと。

(8) コースについての要望を自由に書いてください。

- ・特になし。(×2)
- ・もっと現地の学生と交流する時間を増やして、英語力を向上できたらと思った。
- ・授業数をもう少し多くしてほしいと思った。暇な時間が多かった。また日本語クラブの学生との交流をもう少ししたかったので、その時間を確保してほしい。
- ・もう少しそれぞれのレベルに合った英語の授業があるといいと思った。
- ・施設見学は満足ですが、授業時間をもう少し増やしてほしいです。
- ・もっとカーティン大学の看護の授業に参加したかった。Curtin Japanese Club の学生と交流する時間を十分に取って欲しかった。
- ・もう少し長い期間滞在していたかったです。
- ・3週間は行きたい。日本語倶楽部とほかのプログラムの予定をできるだけかぶせないでほしい。
- ・初日は学校登校日がいい。
- ・もう少し専門の内容の講義を受けたかった。
- ・作業療法の生徒が少なくても、その専攻に特化した施設見学などをさせてもらいたかった。
- ・庶民に対する無料の医療システムがどうなっているか、一般的な総合病院における看護も見てみたかった。
- ・医療英語をもう少し勉強をしたかった。信大でもCEの授業で扱っているが、次週から始まるレクチャーへの参加の予備知識として受けたかった。他専攻で使われる医療英語も、海外や被災地支援でチーム医療を行う上で大切な知識であると思う。
- ・向こうの大学の学生と触れ合う時間がもう少しあったらいいなと思いました。
- ・英語の講義を聞く場面がありましたが、聞くだけではほとんどわからないのでレジュメなどを配ってほしい。
- ・授業数が少なかったのもっと増やしてほしい。
- ・仕方ないことかもしれないが、カーティンプログラムで専攻ごとの内容の差をできるだけなくsしてほしい。

(9) 研修に対する満足度

	大変悪かった	悪かった	どちらともいえない	よかった	大変よかった
①実施時期について		1		11	6
②期間について		2	3	8	5
③コースの構成について			3	12	3
④研修先のスタッフの対応				3	15
⑤信州大学教官の対応			1	3	14
⑥全体としての評価				7	11

*全体としての評価が“悪かった”または“大変悪かった”と答えた方は、その具体的な内容を書いてください。

- ・試験終わり直前だったのであと2、3日でもあけてほしかった。3週間は行きたかった。

(10) 今回の経験はあなたにとってどのような意味がありましたか？ また、今後の学習・進路などにどのような影響を及ぼすと考えますか？あなたの考えを書いてください。

- ・今後、機会があれば海外の医療機関で働きたいと思った。語学留学もしたいと思った。もっと英語力をあげて、会話に困らないようにまですなれば良かった。
- ・初めてのホームステイがとてもいい経験になり、海外で学ぶことへのあこがれがより一層増した。就職してお金を貯めて、また海外で学びたいと思う。
- ・今までよりも広い視野を持つことができるようになったと思う。また、海外で働くことに興味を持つきっかけとなった。これからの実習などを改めてしっかりと頑張っていこうと思った。
- ・自分の進路について考えるきっかけになった。また、自分がこれから学んでいくことが世界で通用するものであること自覚した。また、信州大学で学んでの学びをもっと大切にしようと思った。それと同時に、先生たちともっと仲良くなりたいと思った。
- ・海外に出ることにより、オーストラリアの良さを知ることができたと同時に日本の良さも発見できて、改めて日本は恵まれている環境であると思った。もっと、英語を勉強しようと思った。違う国の医療も見たいと思った。日本で働く上でももっと英語が必要だと感じた。
- ・話すためには、自分が伝えようとするだけでなく、相手も理解しようとしなければ成り立たないということを改めて感じる事ができ、今後コミュニケーションをとるときに大切にしなければいけない姿勢というのを学ぶことができた。また、オーストラリア出身以外の人たちもオーストラリアにきて看護のことを学んでいたり働いている姿を見て、自分たちもずっと日本のことだけを考えるのではなく、世界という広い視野でみることが大切だと学んだ。そのため、これからも英語を勉強していきたいと思う。
- ・今回の経験によって、より日本に帰って、英語だけではなく看護のことまで勉強しなくてはいけないという思いになった。進路などにどのような影響を及ぼすのかはわからないが、何かあった時にこんなことをやったんだと自信につながると感じる。
- ・とてもいい経験になった。Curtin大学の学生の学ぶ姿勢を見て、単位にとらわれずに自分も頑張る勉強しようと思った。また、将来についても幅広い視野を持って考えていこうと思った。
- ・海外での生活を体験したことによってほかの国へも行ってみたいとなりました。積極的に行動したいです。
- ・今回の経験で初めて日本以外の国を訪れました。今までは日本の文化や考え方が知らなかったけど、海外ではさまざまなことが変わってくるということを学びました。また、信大から編入した方にお話を聞くことができ、卒業後海外に出ていくことにも興味がわきました。オーストラリアの人々とコミュニケーションをとるうえで英語を話せるということは大きな武器になると感じました。今回の経験を踏まえて海外に進出するかどうかに関係なくさまざまなことを学ぶ上で英語は重要であると分かりました。また、もしうまく話せなくても伝えようとする、分かろうとしているという意思を示すことは重要であるため積極的にさまざまなことに挑戦していきたいと思いました。
- ・視野が広がった自分の将来の分野や方向性について考えるきっかけを得た。
- ・海外の方とコミュニケーションをとる楽しさを知ることができた。今後、これまでより真剣に英語の学習をしていきたいと思う。
- ・日本における良い点と、オーストラリアにおける良い点がそれぞれ見えてきて、実習に生かせるものであった。患者さんを考えたとき、ハイテクだけが良いのか、つきっきりで看病するのが良いのか、考えながら取り組めると思う。また、将来医療設備を改善する際、意見を述べる事ができると思える。
- ・語学研修・異文化体験としては充実していたと考える。海外の文化を体感するとともに日本との

違いを発見し、なぜそうなるのかということを考えさせられる2週間だった。オーストラリアの看護師はその医療的スキルと人格から、世界的にも人気が高いと、カーティン大学の教授に言われたのだが、それを実感した。これから演習や実習が始まるのだが、今回学んだ「耳を傾け、患者さんの心の声を受け取ること。」をモットーに頑張っていきたい。そして、信大の看護師が日本で人気になるよう、一生懸命勉強をして、さらに多くの人とコミュニケーションを取っていきたい。最後に、Make tomorrow better by Curtin University.

- ・開業権のある理学療法士に興味をもちました。それと同時にこの2週間は将来どのような理学療法士になるかを考える期間になりました。勉強への意欲もわきました。
- ・今回の経験で海外で2週間やっていけたという自信がついたのと、日本とオーストラリアの違いを理解する以前にまだまだ知識量がたりないことを実感させられたので、まず学習としては今まで習ったところをもう一度自分の知識なるように復習したいのと就職してからも日本の理学療法が遅れないために勉強は続けていきたいなと思いました。
- ・海外医療、日本国内の医療について考える良い機会となった。今後も、海外のOT学生と交流する機会があるかもしれないので、より一層勉強に励んでいきたい。
- ・知らなかったことや、日本との違い、実際の医療現場を間近で見ることができ、とても刺激を受けたので今後の勉強意欲がわいた。また、将来海外に就職する選択肢が増えた。

12. 学生レポート

カーティン大学の研修プログラムでは、参加した全ての生徒が多くのことを学ぶことができた二週間であった。プログラム内容は、英会話などのコミュニケーションを学ぶ英語の授業や専攻ごとに分かれたフィールドトリップ、大学の講義の受講、小旅行など盛りだくさんの内容であった。また、オーストラリアに滞在中の二週間は一家庭に生徒一人のホームステイであった。ほとんどの生徒にとってホームステイは初めての経験であり、不安要素でもあり、一番とっていいほどのよい経験でもあった。ホストマザーと生徒の二人だけの家庭や、他の留学生もいる大家族の家庭など色々な家庭があった。始めは言葉の壁によりうまくコミュニケーションをとることができなかつたり、文化や生活の違いによるとまどいなどがあったが、日にちが過ぎるにつれどの生徒もホストファミリーと打ち解けていくことができた。休日にはショッピングや駅まで一緒に行ったりドライブに行く人、バーベキューや映画鑑賞をする人など、どの生徒も充実した休日を過ごしてい

た。生徒全員が思っていたことは、どのホストファミリーも親切で優しく、ホームステイがとてもいい経験になったことである。その一方でやはり個々の英語力不足を痛感し、今後の英語の学習への意欲が以前より増したということである。

研修内容は各専攻により違うのでまずは看護学専攻から紹介したい。看護専攻の施設訪問はKing Edward Memorial Hospital、Regents Garden。他にもカーティン大学の看護学科のキャンパスや授業の見学もあった。

King Edward Memorial Hospitalは女性のための病院であり、南半球で最も大きい周産期病院といわれていて年間6000例の分娩があるという。助産師は300人ほどおり、スタッフも世界中から来ていて、病院自体の広さも一般的な総合病院以上に大きかった。病室は個室となっていてプライバシーが守られ、病室も広く妊産婦、褥婦にとって入院しやすい環境が整っていた。大きな浴槽での水中分娩や、陣痛の緩和はとてもしラックスできるようにできるようだった。14歳の妊婦も世界各国から多く訪れるようで、そのような若い妊婦への教育にも力をい

れているような印象を受けた。

Regents Garden は日本でいう老人ホームにあたる施設で、この施設では認知症の方を除いて介護度が高い低い関係なく同じ空間で生活できる施設内構造であった。施設内は開放的で明るく自然豊かで、住んでいて困るようなことはないように思えた。多くの生徒達が驚いていたことは食事内容であり、メニュー表を見てみると、肉料理や魚料理、スイーツ、お酒類など、油を多く使う料理や糖分が多いものなどが並んでいた。日本は、健康志向が根強いためこのような料理を避ける風潮にあるが、オーストラリアでは、残りの人生を楽しく幸せに暮らすために好きなものを好きなように食べるという考え方があるようである。とはいっても、利用者の健康状態をスタッフはしっかり把握しているの、栄養バランスのとれた食事や整容、運動など利用者に合わせたプランが整っている。スタッフの数も施設マネージャーを含め充実しているの、利用者ひとりひとりが安心して暮らすことのできる施設であるという印象であった。

カーティン大学の看護学科のキャンパスはとても新しくきれいな施設だった。血糖値が下がると反応する高性能な人形もあった。また、カーティン大学では座学と技術練習のあとコミュニケーションを取る練習をするそうだ。このコミュニケーションを取る練習はそれ専用の教室があり、デモンストレーションを行う部屋と学生たちがその様子を見る部屋がマジックミラーで仕切られている。デモンストレーションを行う部屋での音声は全ての学生たちに聞こえるのだという。信州大学ではこのようなコミュニケーションをとる練習をすることはないが、実践的なコミュニケーションをとる練習をすることで病院実習での情報収集がスムーズに行うことができると思うので、必要なシステムだと感じた。また、看護学科の授業では授業中に活発な意見交換があることに驚いた。先生が講義内容を話しているのではなく、先生と生徒で授業を作り上げているという印象を受けた。

次に、理学療法学専攻と作業療法学専攻について。病院、施設見学は、両専攻合同であった。

Niche、Student Health and Wellness Clinic、Lifecare Physiotherapy Clinic、Fiona Stanly Hospital の4か所の見学をすることができた。まず、Niche では、たくさんのおもちゃ、車いす、コミュニケーションエイドを体験することができた。おもちゃは多少は授業で見たことはあるけれど、スプーン一つだけでも多くの種類があった。車いすは長距離走行用や室内用、スポーツ用など、種類が豊富で、これらを一気に体験することができてよかった。また、コミュニケーションエイドは電子化が進んでおり、目の動きを察知するものやタブレットを使用したものなどがあった。次に、Student Health and Wellness Clinic について。ここは理学療法学専攻の学生が臨床実習をするところで、信州大学でいう信州大学附属病院のようなものだ。学生のためにできた施設であるため、診察時間は60分前後と長い、診察料は格安である。そのため、意外にも多くの患者がいたように感じた。三つめは、Lifecare Physiotherapy Clinic についてだが、ここは理学療法士が開業した病院であり、法律上日本には存在しない施設である。実は、オーストラリアにはこのようなクリニックはたくさんある。クリニックの代表の先生はクリニックについていろいろと説明してくれたが、多くの学生が一番印象に残っているのは「療法士として長く働いていると患者のカルテを見るだけで何となく病気のことが分かるようになってくるが、それでも自分の作った枠に患者を入れないこと。積極的に患者の言っていることを聞くことが療法士にとって一番大事なことだ。」という言葉である。この言葉は将来医療者として働くことになってもずっと心に留めておこうと感じた。最後に、Fiona Stanly Hospital について。ここは最近改築した総合病院で、とても大きくきれいだった。リハビリ棟だけで一つの大きなビルが建っていて、療法室、ジム、さらに、水治療室などの大掛かりな療法室もあった。この病院の特徴として、アシスタントと呼ばれる職員がいることが挙げられる。彼らは理学、作業、言語聴覚など、多くの療法に関する知識を持っているため、各療法士の指示の下ではあるが各療法を一人のアシスタントが行うことができる。そのため、

療法士間の情報の混乱を防ぐことができるそう
うだ。複数の治療が必要な患者を多く抱える総
合病院ならではのシステムだと感じた。

授業について理学療法学専攻では現地の理
学療法学専攻の学生と一緒に講義を聞くこと
ができた。講義はとても早口な英語についてい
くこともままならない時もあったが、所々で日
本で習っていたものもあったため、なんとなく
は理解することができた。1部屋に100人ほど
いたが、誰一人寝ることはなく、先生の言った
ことをパソコンにメモして、わからないことは
即座に先生に質問していたのが印象的であっ
た。

作業療法学専攻では、実技の授業に参加する
ことができた。ただ実践していくのではなく、
実際の臨床を想定して、自分たちで症例を考え、
それに対してどのように支援していくか、グル
ープワークを通して話し合っていた。授業のレ
ベル自体は自分たちが日本で学んできたレベ
ルと大差なかったが、分からないことがあつた
らすぐに質問をしてその場で解決する、という
スタイルが確立していて、学生の積極性がよく
出ていたように感じた。

休暇について、一週目の週末、金曜日と土曜
日に学校企画の小旅行に行った。金曜日は動物
園、チョコレート工場、ワイナリーに行った。
動物園では運よくコアラに触ることができ、カ

ンガルーの餌付けも体験できた。その他にもア
ニマルショーを見たり、いろいろな動物を見る
こともできた。チョコレート工場ではチョコレ
ートの試食し放題だったため、たくさんつまん
でしまった。ほかにもアイスやホットチョコな
ども置いてあり、すべてとてもおいしかった。
ワイナリーではワインの試飲ができた。オース
トラリアでは18歳以上でお酒が飲めるため、
体と相談しながら飲んでみてもいいかもしれ
ない。土曜日はロットネスト島に行った。ここ
ではサイクリングを楽しんだ。青い海、白い砂
浜、緑豊かな自然、島特有の動物など、とても
癒された。頑張って島一周する人もいれば、海
で貝を探したりしてのんびりする人もいる。過
ごし方は人それぞれであるが、どのような過ご
し方をしてもきっと楽しめるであろう。

このように、2週間という短い時間ではあつ
たものの、ホームステイ、研修、観光など、実
に充実した時間を過ごすことができた。言語や
文化に違いはあつたものの、ほとんどの学生が
その壁を乗り越え、交流していくことの喜びを
知ることができた。このように良い経験ができ
たのは、信州大学、カーティン大学の教員の皆
様、ホームステイ先として私たちを迎えてくれ
た家族の皆様のおかげである。この場を借りて
感謝したい。

以上、カーティン大学夏期短期プログラム

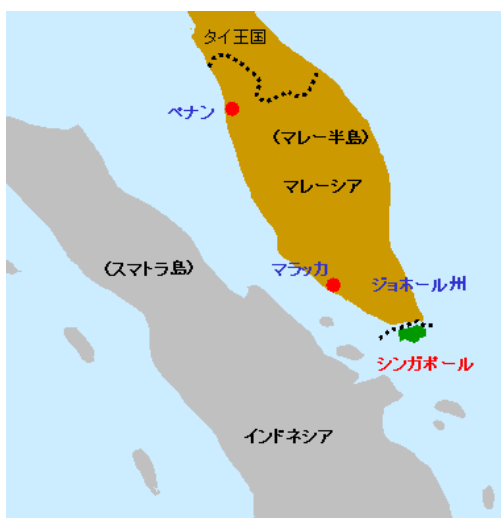


V. 信州大学—シンガポール共和国

夏期海外研修保健医療スタディツアープログラム

Shinshu University, School of Medicine, School of Health Sciences

—Republic of Singapore



2015

1. シンガポール共和国の概要

1) 一般情報

1. 面積

約 716 平方キロメートル（東京 23 区と同程度）

2. 人口

約 540 万人（うちシンガポール人・永住者は 384 万人）（2013 年 9 月）

3. 民族

中華系 74%、マレー系 13%、インド系 9%、その他 3%

4. 言語

国語はマレー語。公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語。

5. 宗教

仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教

6. 略史

1400 年頃 現在のシンガポール領域にマラッカ王国建国。

1511 年 マラッカがポルトガルに占領され、マラッカ王国が滅亡。

マラッカ王国の王はマレー半島のジョホールに移り、ジョホール王国を建国。それに伴い、ジョホール王国によって現在のシンガポール領域が支配される。

1819 年 英国人トーマス・ラッフルズが上陸。ジョホール王国より許可を受け商館建設。

1824 年 正式に英国の植民地となる。

1832 年 英国の海峡植民地の首都に定められる。

（1942 年～1945 年） （日本軍による占領）

1959 年 英国より自治権を獲得、シンガポール自治州となる。

1963 年 マレーシア成立に伴い、その一州として参加。

1965 年 マレーシアより分離、シンガポール共和国として独立。

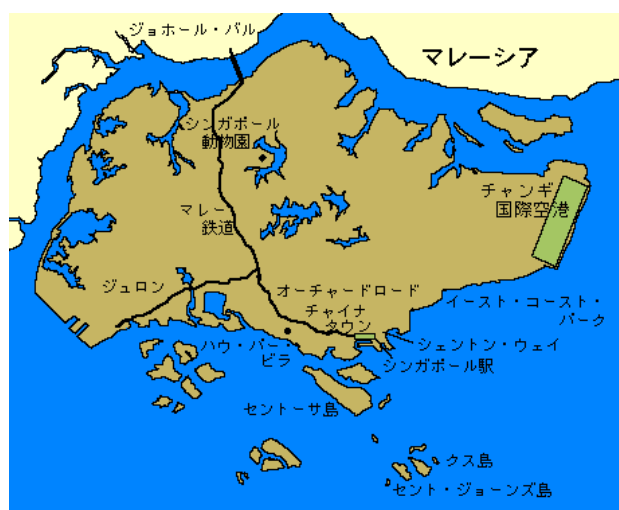
7. 政体

立憲共和制（1965 年 8 月 9 日成立）（英連邦加盟）

8. 元首

大統領（任期 6 年）、

他、参考 URL 参照 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html#01>



2) 主な研修エリア

チャイナタウンを基点に、研修先は地下鉄で10分～30分程度。
活動エリアはシンガポール全体。

2. 保健医療スタディツアープログラムの概要

1) 目的

異文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療者としての態度を涵養する。
シンガポールでは、シンガポール市内およびシンガポール総合病院の保健・医療現場の見学や体験から、開発途上国の保健医療の現状を理解し、将来国際保健・医療を担うことのイメージを広げる。

2) 目標

- ①異なる医療システムのもとでの協働のあり方を理解する。
- ②英語を使用する環境のもとで、生きた英語を修得する。
- ③他人種との交流を通して、異文化理解の一助とする。
- ④国際人としての態度を自ら育てる。

3) 研修期間

平成27年8月21日（金）～8月28日（金）（7日間）

参加者出国日 H27年8月21日

参加者帰国日 H27年8月29日

現地活動期間 H27年8月21日 ～ H27年8月28日（8日間）

4) 主な研修先

市内の複数種類の総合病院や教育機関を見学し、専門職等の実際や学習環境を知る。

SGH: Singapore General Hospital

NYP: Nanyang Polytechnic (School of Health Science)

Bright Vision Hospital

KK Women's and Children's hospital (KKH)

5) 参加人数

看護7名（3年生7名）、検査技術3名（3年生3名）、理学療法4名（2年生4名）、
作業療法3名（2年生1名・3年生2名）

合計17名（うち、3名はカーティンプログラムから合流）

6) 担当教員

引率：山崎明美 講師

国内・学内サポート：国際交流委員会（奥野、Goh、山崎浩司、石田文宏、大平、相良、埴原、川船(学務第二)）

7) 研修費用

①研修費用概要

渡航費用：	68,770 円
宿泊費用：	27,500 円
保険料：	3,780 円
研修費（SGH 他研修機関およびバス移動費）	24,200 円
シンガポール国内交通費	約 1,000 円
日本国内交通費	約 20,000 円
<hr/>	
合計	約 145,000 円

②研修支援

14名の参加者が信州大学平成27年度グローバル人材育成事業による海外活動支援に応募し、採択され70000円の奨学金が支給された。

8) リスク管理体制

平成23年度からは、信州大学が正会員となっている特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会（The Japanese Council for the Safety of Overseas Studies; JCSOS）の緊急事故支援システムに加入し、研修中の不慮の事故に対するリスク管理体制を強化した。本年度も当支援システムに継続して加入のうえ、プログラムを実施した。加えて、学生・教員全員が同じ旅行保険に加入した。

3. 研修プログラムの詳細

1. 研修先の概要

1) シンガポールの教育

今回訪問したシンガポールは国際都市であり、その教育や医療は国際的かつレベルが高い。その理由として、シンガポールは資源を持たない小国であることが挙げられる。資源の乏しいシンガポールでは、人々の働きによって何らかの「価値」を作り出さなければたちまち貧しくなってしまうという危機感がある。グローバル化が進む中で、全世界的に有力な企業の拠点をシンガポール誘致するというのは非常に重要なことになっている。そのような産業的な要請の流れの中で研究者・専門家の誘致も戦略的に考えられている。

加えて、複数の民族が共存することから、国を維持するために教育は大変重要な課題である。国家予算に占める教育費の割合が防衛費に次いで第二位であり、政府が教育に重点的に投資していることがわかる。

シンガポールでは小学校から厳しい選抜が行われ、優秀な生徒をエリート教育するシステムが整っている。シンガポールの基本的な教育制度は、小学校（Primary School）6年、中学校（Secondary School）4年、ジュニアカレッジ（Junior College）2年、大学（University）4年というコースである。進学するたびごとの選抜システムが特徴的である。シンガポール政府のホームページに詳しい記載がある。

さらに、大学、中でもPh.D. コースの大学院生や研究者に関しては、海外から研究の場を求めてシンガポールへと来た方が非常に多い。また、組織のトップにアメリカやイギリスで教育

を受けたトップクラスの研究者が多く、その理由の一つは、優秀な研究者が来れば、良い研究ができるだろうということのようだ。次に、英語ができることである。英語ができるというのは、単純に研究についてのコミュニケーションが英語でとれるということではなく、あらゆるコミュニケーションにおいて英語を使っていてまったく不自由を感じないという意味が重要視される。シンガポール人は英語が話せるので、組織内でのコミュニケーションには困らず、欧米の研究者や専門家とのコミュニケーションにも困らないことによる様々な恩恵が見込めるといふことのようにだ。

シンガポールの大学院は世界中の学生を積極的に呼び寄せている。奨学金制度が充実し、レベルの高い研究が出来るシンガポールには世界中から学生が集まってくる。なかでも、中国からの留学生が多い。

このようなシンガポールには、大学が3つある。シンガポール国立大学 (National University of Singapore)、南洋理工大学 (Nanyang Technological University)、シンガポール経営大学 (Singapore Management University) である。このうちのシンガポール国立大学の病院には、2014年に訪問見学した。

大学のほかに、ポリテクニク (Polytechnic) と呼ばれる。高等技術専門学校や高等専門学校と訳される3年制の学校で diploma を取得できる。ポリテクニクは職業に直結するような高度な専門知識を学び、日本でいえば高等専門学校のようなものである。訪問先の NYP (Nanyang Polytechnic) がこれにあたる。NYP の理学療法学科は、2014年9月入学生より大学化された。

2) シンガポールの医療

シンガポールの医療は元々医療水準の高い都市であるが、さらに国策として外国の医師免許 (条件付き) を認めていることで、外国人医師も多く、同時に外国人の医療従事者も多くいる。

私立総合病院の経営システムは日本と異なる。シンガポールの私立病院では、OPEN SYSTEM を採用しており、各専門医は独立した開業医として、病院内の施設をテナントとして借り受けてクリニックを開業しており、検査や処置、入院が必要な時は病院の施設を借りて行う。また、各クリニックのスタッフは医師が直接雇用しており、運営や診療方針も全てその医師に委ねられている。

公立病院は日本の総合病院と同じシステム (CLOSED SYSTEM) で医師もそれぞれの病院に所属しており、ひとつの病院で検査から治療、入院まで全て行うことができ支払いも一度で済ませることができる。訪問先の SGH は CLOSED SYSTEM である。

3) 訪問先 SGH : Singapore General Hospital

SGH は 1821 年創設のシンガポールでは一番歴史があり、最大である。と同時に、アジア圏においても最大規模であり、高度な医療技術と豊富な人材を誇る。1900 年代初頭に医療と看護の学校が設立されて以降、SGH は医療教育の中心になっている。多くの優秀な医療従事者を輩出し、国内の学部生、大学院生そして医療専門スタッフの教育に携わっている。国外からの研修生の受け入れも行なっている。

キャンパスの広さは 18 ヘクタール、SGH だけで 8 ブロックある。シンガポールでは第 3 次救急病院としての役割を持った最大の病院で、5 つの専門領域の医療センターを擁する。

約 2000 床のベッド数と 600 名以上の専門医、約 4000 名の看護師、他専門職を抱え、年間約 7 万人以上の入院患者、約 100 万人の外来患者に対し、約 1 万人のスタッフで対応している。

35 の診療科目の他、病院敷地内にある 5 つの専門医療センター、眼科、循環器、がん、歯科、脳血管疾患のセンター棟があり、患者は専門治療を受けることができる。

さらに、院内には、現任教育専従担当者がおり、その担当者が院内専門職のみならず、外部からの様々な研修生の対応も行うシステムが構築されており、今回の本学の研修でも担当していただいた。大規模かつ最先端の医療水準を保持しようとする院内システム、加えて、高い水準のサービス提供への誇りとそれを支える専門職現任教育システムを維持している。

HP: <http://www.sgh.com.sg/Pages/default.aspx>



Singapore General Hospital 初日オリエンテーション



Singapore General Hospital

4) 訪問先 NYP : Nanyang Polytechnic (School of Health Science)

NYPは1992年に創設された。ヘルスケア科とビジネス科から始まり、翌年、エンジニア科やIT科も設置され、その後いくつかの科が増設されてきた。30ヘクタールのキャンパスに、15000名の学生、1300名のスタッフを擁する。

ヘルスケアの分野には、看護、歯科衛生、社会福祉、理学療法、作業療法、診断X線撮影と放射線療法の専攻が設置されている。各学年の学生数は、理学療法・作業療法は約100名、看護は約650名。看護専攻の場合、最大規模の教室での収容人数が280名のため、1学年につき同じ内容の授業を3回提供している。理学療法・作業療法は、2014年9月入学生から、アイルランドのダブリン、トリニティカレッジとの提携により大学化された。

HP: <http://www.nyp.edu.sg/shs/school-of-health-sciences>

理学療法→Trinity College Dublin, Diploma in Physiotherapy in NYP, Singapore
<https://medicine.tcd.ie/physiotherapy/singapore/>

5) Bright Vision Hospital

BVH は、コミュニティ病院に位置付けられる約 300 床の病院である。1 年につきおよそ 1200 人の新しい患者に中長期のケアサービスを提供している。

BVH は、患者の身体的かつ精神的、スピリチュアル、社会的な健康について、統合された健康プログラムを提供している。

BVH の概要紹介ビデオは URL 参照。

<http://www.bvh.org.sg/about-bvh/bvh-story.html#null>

6) KK Women' s and Children' s hospital (KKH)

KKH は、1858 年に設立された。産科、婦人科、小児科、新生児科における地域の代表的な病院である。ハイリスクな状態にある女性と子どもを取り扱う約 800 床の病院である。600 人以上の専門家が可能な限り最高の治療をするために最新技術と科学を駆使している。

アカデミックな医療センターとして、JCI (Joint Commission International) に公認されて、KKH は、世界レベルの臨床実習と研究、が標準的なケアを向上させると考えている。臨床でのレベルを引き上げることを絶えず継続している。分断されることのないサービスを受け、共感的なあたたかいケアにより快適な病院の体験になるよう、患者の要望に敏感に対応している。

HP : <http://www.kkh.com.sg/AboutUs/Pages/Home.aspx>

2. 研修プログラム

Itinerary for study tour Singapore 2015 Shinshu University, School of Health Sciences, International Programme: Short-term studying Course

date		time	activity/address	cordinator/lecturer	reward,other
Aug			(Airport-taxi from Matsumoto)		
	21	Fri 8:30	member meet at NRT: Narita International Airport, 1st terminal-South Wing 4F, SQ Check in Counter "I"	A.Yamazaki	
		11:10	Dep.NRT11:10 SQ637		
		17:45	Arri. SIN 17:45 Singapore Changi International Airport, Arrival:Terminal3 Bus: Pickup time: 19.00 pm at Terminal 3 (to be confirmed) Arri.Hotel	A.Yamazaki	COST: \$110 (cash)
	22	Sat	AM:Guidance at ChinaTown Station and other Free Day 3 students arriv. Changi International Airport (HYamazaki)	Mr.H.Yamazaki(Shinshu-u);Curtin to Sin Ms.A.Yamazaki(Shinshu-u)	
	23	Sun	Aquarium :AM WaterPark :PM Resorts World Sentosa 8 Sentosa Gateway, Sentosa Island, 098269	Optional Tour	OneDayPass \$36 OneDayPass \$37
	24	Mon	10:00-16:30 SGH: Singapore General Hospital :Academia. Tour:17students, (detail on another information paper)	PGAHI Staff: Shirley Toh , Contact no:6576-2709	

date		time	activity/address	cordinator/lecturer	reward,other
	25	Tue 9:00-16:00	One-day Attachment@ Nursing Department Meeting Venue: Singapore General Hospital, Block 7, Level 1 (Near Bengawan Solo Cafe)	Name of IAN Staff: Sharon Lui : Contact no.: 6321-4569	
		8:30-16:30	One-day Attachment @ Physiotherapy Department Meeting Venue: Physiotherapy, Rehabilitation Centre, NHCS, Level 7	Ms Nurul Aini, Physiotherapy Department, Tel: 6321-4132	
		9:30-17:00	One-day Attachment @ Occupational Therapy Department Meeting Venue: Occupational Therapy, Rehab Centre, NHCS, Level 7	Name of OPT Staff: Wendy Chiang Contact no.: 6576 2449	Attire: Office wear (shirt with sleeves that are above elbow length and black long pants [no jeans]) with comfortable covered shoes
		9:00-17:00	One-day Attachment @ Pathology Department Meeting Venue: Diagnostic Bacteriology Laboratory, Academia, Level 11	Name of Pathology Staff: Ms Ferdaus Haneem (Senior Medical Technologist i/c) Contact no.: 6326-5218	
	26	Wed 9:30-12:00	Visit of NYP :10:30-12:00 : 17students Porcelain Hotel at 9:30		
		13:00-16:00	Visit of BVH : 14:00-16:00 : 17students NYP around 13:15—BVH at 13:45 around	Name of BVH Staff: tbc Contact no.: tbc	
			Option: Night Safari http://www.nightsafari.com.sg/ 80 Mandai Lake Rd.Singapore 729826 (65) 6269 3411	AYamazaki Optional Tour: Going by Bus, Admission Fee 42S\$ per Adult(entry fee & 1round of tram ride) . Having a dinner before entry is better.	42S\$

date		time	activity/address	cordinator/lecturer	reward,other
27	Thu	AM	FREE		
		14:00-17:00	Visit of KKH : 15:00-17:00: 17students Porcelain Hotel at 14:00, KKH at 14:45	Name of KKH Staff: Lili Tan Contact no.: 6394-2322	
		Gardens by the Bay,Marina Bay Sands 18 Marina Gardens Drive, Singapore 018953, Wonder Full:Water Show(Duration 15min) http://www.marinabaysands.com/entertainment/wonderfull.html	Optional Tour: Wonder Full(Water Show) 20:00 at Event Plaza at the Promenade, before then, you can walking by the sea and have dinner at bayside	28S\$	
28	Fri		FREE DAY / SHOPPING	Ayamazaki	
		18:45	Bus:Pickup time: 19.00pm (at Porcelain Hotel in Chinatown) Drop off location: Changi Airport Terminal 3 (to be confirmed) No. of passengers: 18 pax (with luggage)		
		23:55	Dept.SQ636 (to Haneda) Singapore Changi International Airport, 3st terminal SQ Check in Counter		COST: \$110 (cash)
29	Sat		Arri HND 6:35		

NYP = NANYANG POLYTECHNIC (SCHOOL OF HEALTH SCIENCE) <http://www.nyp.edu.sg/>
BVH=Bright Vision Hospital <http://www.bvh.org.sg/> <https://www.facebook.com/brightvisionch>
KKH=KK Women's and Children's Hospital <http://www.kkh.com.sg/Pages/Home.aspx>
<https://www.facebook.com/kkh.sg/timeline>

[Accomodation]
5Footway.Inn
63A Pagoda Street Singapore(059222)
Tel: (65) 6221 5832

[Accomodation]
HYamazaki (22-26Aug) / AYamazaki(21-28Aug)
Porcelain Hotel by JL Asia
48 Mosque Street Chinatown Singapore 059526



4. 学生アンケート (N=16)

1. 出発前の準備

①費用の捻出

	N
家族が全額負担	5
自己資金のみ	3
自己資金と家族の支援	8

②渡豪前の自己学習

	N
自己学習した	13
何もしなかった	3

③プログラムの説明会の時期

(4月の新生・在校生オリエンテーション)

	N
適切	15
不適切	1

④参加申し込み締め切り期限

	N
適切	16
不適切	0

⑤オリエンテーション時期

	N
適切	16
不適切	0

⑥オリエンテーション内容

	N
適切	15
不適切	1

【参加動機】

- ・海外の医療状況を知り、日本と異なる点や同じ点を知ること、何が今の医療に必要なのかを知りたいと思ったため。また、海外に行き様々な経験をする中で、何か得られることがあるのではないかと思ったため。
- ・海外の医療を見学したかったから。
- ・将来の仕事や生き方に活かせると思ったためです。
- ・海外の医療について興味があり、今まで海外旅行を経験したことがなかったため、そのような経験をして見たかったから。
- ・アルバイト代が貯まったから。海外研修に参加する最後のチャンスだと思ったから。3年間色々と看護を学んできた上で、世界の医療にも触れることで、自分の価値観を広げたかったから。
- ・せっかく参加できる機会だったから積極的に参加しようと思った。
- ・日本と海外の医療現場を実際に見て、類似点や相違点をみてみたかったから。それを今後の勉強に生かしたいと思ったから。
- ・海外の進んだ医療を見てみたい、英語の勉強をしたい、異文化を体験したいというのが動機です。
- ・今まで海外に行ったことがなかったため、海外に行くという経験をしたかったから。他国であっても病院見学をすることで、これからの学習のモチベーションを上げることができると思ったから。
- ・海外に興味があったということ、そしてもっと広い視点で医療現場を見てみたいと思った。
- ・学生のうちに海外の医療、特にOTについて実際に見てみたかったからです。
- ・昨年、WFOTというOTの国際学会を見て、日本のOTがまだまだ遅れていることを実感し、海外と比べた日本を再確認したいと思いました。また、シンガポール研修の費用が他と比べて安

かったことも大きかったです。

- ・かかる費用が安く、ホームステイではなかったため英語が苦手でも大丈夫かと思ったから。
- ・海外の医療現場を直接見てみたいと思ったため。
- ・シンガポールの治安の良さ、先端医療、海外のOTの見学プログラム、費用の安さが初海外の自分にとって魅力的だったから。
- ・海外に興味があったため。
- ・日本より水準の高いシンガポールで、どのような医療が展開されているのか興味があった。初めは参加に迷っていたものの、カーティンプログラムでの飛行機の乗り継ぎの関係で今年まとめて行ったほうが得だと感じ、今年行くことを決めた。
- ・海外の医療に興味があったから。

【事前学習した内容】

- ・シンガポールの概要など。
- ・シンガポールの政策など（ただ、先生が配布してくださった資料のみです。）
- ・オリエンテーションの冊子と、eALPsにアップされた資料を一通り読んだ。
- ・日常会話程度の英語、e-alpsに掲載している資料を読んだ。
- ・シンガポールの医療制度に関する概要、英語等。
- ・eALPSにあげられていたシンガポールについての資料を読んだ。
- ・シンガポールの医療制度。
- ・シンガポールの医療について、予めホームページをみるなどしました。
- ・先生に配布された資料と紹介されたサイト。
- ・教員が事前に提示した情報をみたこと。
- ・シンガポールの歴史。
- ・英会話、医療系の英語を少し。
- ・現地の医療についてと簡単な英会話

【事前学習が必要と感じた内容】

- ・英語、シンガポールの歴史、研修先の病院・大学のシステムや方針。
- ・語学やシンガポールの特徴。
- ・シンガポールの医療制度、仕組みについて。

【オリエンテーション時期のコメント】

- ・在校生に対しては、テストと重ならない程度に早い時期がいいと思います。

【オリエンテーション内容】

- ・研修費について、早めに詳細を知りたかった。また、知の森基金についてももう少し詳しく知りたかった。

2. 研修コースについて

英語以外の授業の満足度

	非常に 不満	やや不満	どちらとも いえない	やや満足	非常に 満足
①始業時間、授業の時間について			3	8	5
②授業の内容について			4	8	4
③授業のレベルについて			4	8	4
④全体としての満足度			3	8	5

施設等の見学（体験を含む）満足度

	非常に 不満	やや不満	どちらとも いえない	やや満足	非常に 満足
①見学の時間について		2	1	7	6
②見学の内容について			1	8	7
③見学説明のレベルについて		1	2	8	5
④見学施設について				2	14
⑤全体としての満足度				7	9

全体としての満足度が“やや不満”または“非常に不満”だった方は、その具体的内容を書いてください。

- ・半日で一つの施設を見学することは、時間が短く全てを詳しく見る事が出来なかった

①印象に残った見学先

・NYP

私たちと同じ学生がどのような環境でどのようなことを学んでいるのかを知ることができ、すごく刺激を受けた。

設備の充実さがすごく驚いた。

自分が看護学生として学んできたことと海外の看護教育の実態を比較することができて、おもしろかった

ンガポールの保健医療に関する教育現場を見ることができた。日本とは違い、シミュレーションや現代の IT 関連の発達に対応した授業を行っていることに驚いた。

・Bright Vision Hospital

日本と似ている面を見学することができたため。日本と似ている面とは、高齢者が多く長期的（慢性的）に入院にしているところです。

・SGH

SGH や KKH は、とても発展していて参考になりましたが、その他こういった面も見ることができて良かったと思います。

シンガポールで一番大きな病院であり、その規模とスケールに驚いたから。

シンガポールの医療制度が垣間見られたり、高圧酸素療法などの高度医療が見られたり、日本にはないものをたくさん見学し、学ぶことができたから。

一つ一つの検査室がとても大きくて、何部屋も分かれているものもありました。

機械もたくさんあって、進んだ医療を見ることができました。

専攻ごとに分かれて見学ができたため。検査技術科学専攻の学生3人のために、忙しい中、丁寧に説明をしていただき、多くの検査室を見学することができた。実際の医療現場を見ることで、これからの学習を大切にしていこうと思うことができた。

やはり規模が大きく、ひとつひとつの検査室が大きかった。

最も印象に残ったのはSGHでの見学です。SGHでは、それぞれの専攻に分かれて見学をすることができました。その中でも、疾患ごとに細かく分けられており、その中でもBurn（熱傷）はアジア圏でも唯一の科であるように、最先端の技術、そして研究がなされているのをお話頂き、大変興味深かったです。また、実際に患者さんの前に出していただき、どのように対応されているのか、評価されているのか、といったことまで詳しく聞くことができ、日本にいたるだけでは知ることができないことを経験させて頂いたと思っています。

全体としての見学もあり、専攻ごとに分かれてより詳しく学ぶこともできたから。

体験もできて良かった。

医療体制から日本と一番異なっている施設で、海外の作業療法の現場を見れたこと、非常に広く多くの機能を持った病院であったことなどから。

今までの病院見学では、どこもリハビリ室を訪れることが多かったが、患者さんの病室に向いてリハビリを行うことを初めて見たことで、理学療法士としての活動の幅や、リハビリの重要性、むずかしさを目の当たりにしたから。

(1) 最終的に英語を使っての会話を積極的に行えましたか。

まったく積極的に 行えなかった	あまり積極的に 行えなかった	どちらとも いえない	やや積極的に 行った	とても積極的に 行った
	3	5	5	3

(2) 今後、英語力アップのため、TOEIC や IELTS などの英語試験を受けようと思いますか

まったく 思わない	あまりそうは 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
1	1	5	6	3

②コースを通して、よかったことを自由に書いてください。

- ・医療水準の高いSGHなどの大規模な施設を見学させてもらったことはとても貴重な体験だったと思う。また、1週間海外にいて、自分に積極性というもの少しだけ身についたかなと思えたことはよかった。
- ・スタッフの人が丁寧に説明をしてくださったこと。
- ・遊べるとことは遊び、学ぶところは学ぶことができ、多角的にその国の特徴などを知ることができて良かったです。
- ・研修の内容は、盛りだくさんでかつ観光についてやすい時間もたっぷりあったため充実した一週間を過ごすことが出来た。また、値段も手ごろで参加しやすかった。
- ・専攻ごとに少人数でまわることで質問がしやすく、理解が困難だった部分も助け合うことで理解することができた。高圧酸素療法など、日本ではなかなか見られない高度医療を見ることができたり、受けられる医療のランク分けといったシンガポールの医療制度にも触れることができた。
- ・観光する時間もあったので、楽しめた。いろんな施設を見学できたので、新鮮な気持ちで学ぶことができた。他の専攻についても見学等できたので、他の専攻のことも知ることができたとし、チーム医

療の重要性を感じることができた。

- ・自分の希望していた、微生物検査室を見学できたことが嬉しいです。
- ・いくつかの病院を見学できたこと。また、病院の方に親切に分かりやすく説明していただけて良かった。
- ・シンガポール研修のみでなく、観光なども含まれていたのが息抜きになった。あと、これからの病院見学に対する取り組む姿勢をきちんと持つことができた。
- ・コースを通して、研修も、また観光も盛りだくさんとなっており、1週間というとても短い期間であっても充実したとても濃いプログラムであったと思います。スケジュール的に、始めの2日間は観光になっていたことも、そこでシンガポールの雰囲気や英語に慣れるのにとってもよかったと思いました。また、特にOTは実際に患者さんを見せて頂いたり、ついてくださったOTが現在している研究などを教えてくださったりと、様々なことを目に見える形で研修させていただいたので、自分が今している実習などとも比較でき、とても面白いと思います。
- ・シンガポールと日本の医療制度の違いについて知ることができ、作業療法ではどんなことがどのように行われているかを学ぶことができ良かった。観光もたくさん場所に行くことができとても満足している。
- ・シンガポールにおける医療関連の教育、総合病院、専門病院など、それぞれ特異性を知ることができた。また、程よい具合に自由時間があつたため、その時間を休息や観光にまわすことができよかったと思う。
- ・作業療法に関しては日本と異なることが多く非常に良かった。
- ・内容が充実していた。
- ・一日理学療法士の先生に付けてもらえたことがとても幸せだった。話も丁寧にしてもらえ、質問にも丁寧に答えていただけた。さらに、シンガポールには色々な国籍を持つ人が集まっているため、言語や生活習慣等の違いに対応していかなければならないことを感じた。
- ・日本とは違う海外の医療を学べたことが一番よかった。また自分の英語力を実際に試すことができたこと、海外に友達ができただけよかった。

③コースを通して、困ったことをできるだけ詳しく書いてください。

- ・食事面にはすごく悩まされた。中華系の食事に飽きてきてしまい、パスタや新鮮な野菜がすごく恋しくなった。また、ホテルは本当に狭くて、トイレも共同であり落ち着いてすることができなかつたのがつらかつた。
- ・ホテルのトイレとシャワーが汚かつた。
- ・語学力がなくて困ることが多々ありました。事前準備をしていなかった自己責任ではありますが、事前に英会話の練習などをすれば良かったです。
- ・シンガポールは、英語で会話しようとしても伝わらないことが多く、道を聞きたいときや質問したいときにとても戸惑ってしまった。
- ・SGHでの研修初日、病院内の案内をしてくださったのだが、内容が理学療法や検査科学技術療法の内容ばかりで理解するのが困難だった。早口で説明してくださる方が多く、英語を聞き取るのが大変だった。
- ・当たり前だが、すべて英語での説明だったため、なかなか理解できずに困った。
- ・SGHでの見学時に、お昼を院内で食べることになりました。食堂がとても混んでいて場所取りや、混雑する中での食事の注文が大変でした。(雑音の中、慣れない英語でのやりとり)
- ・英語を聞き取ることができなかつたこと。分からないところで質問することができたものもあつたが、質問をできずに、何を言っているのか分からない場面が多々あつた。
- ・看護やOT、PTに比べて検査は内容の吸収が少なかつたように感じた。病院においての説明の際、他

の専攻についての説明やスライドショーなどが多く検査部の方のお話も少し聞きたかった。

- ・コースを通して、とても困ったという経験はなく終了でき、満足ができましたが、シンガポールの医療、労働制度について、もっと詳しく勉強していれば、さらに充実した研修が出来たのではないかなと思いました。研修直前はテスト前であったこともあり、シンガポールの医療について事前学習するのに手いっぱいになってしまいました。OTはとくに教育、労働とも密に関わることで、直接的でないこともしっかりと学習することの大切さを感じました。
- ・英語を全て聞き取れたわけではないため、話しかけられた時何を話せばよいか戸惑った。
- ・病院での英語は医療用語や話すスピードなどリスニングが大変だった。
- ・シンガポールの英語に慣れるのに、時間がかかった。そのため、初日は聞くことに精いっぱいになってしまった。
- ・自分の英語力不足により会話が上手く伝わらなかったり、言っていることが理解できなかったこと。

要望

- ・SGH 見学の一日目はPT・OT についての内容が多いように感じて、専門的な話をされるとさっぱり分からなかった。一日目から専攻ごとに分かれても良かったのかなと少し思った。
- ・研修前にもう少し英語の授業を行ってほしい。
- ・看護学専攻に関しては、病院見学がほとんどでした。もう少しコアな経験ができると思います。
- ・NYP で、学生の方と交流をしてみたかった。
- ・看護師と患者さんとのやり取りを実際にもっとみれたらまた違った点で学びを深められたのではないかなと思った。
- ・検査関連の見学が初日の最後に少し、二日目、四日目と、他の専攻に比べて半分ほどでした。すべての見学先、内容には不満は全くありませんが、もう少し、次年度からはもう少し検査関連の見学に行くことができると思います。
- ・病院見学の予定が少しハードだったので、もう少し、1日当たりの見学時間が短くても良いような気がした。
- ・英語がやはりすべて聞き取れるわけではないので通訳してくれる先生がいるとさらに良かったと思います。
- ・OTにとっては、OTの説明も他学科の説明も目新しいことが多く、とても興味深い研修でしたが、他学科には、他の学科の説明が主なので理解が難しいという声も聞かれました。可能であるならば、もう少し分かれて研修ができれば良いのかもしれない。
- ・質問をする時間がもう少しあると良いと思った。
- ・とくにSGHなのですが、もう少し質問する時間やゆっくり考える、言っていることを整理する時間がほしかったかな、と思いました。各専攻の説明の後、3～5分くらいでいいので。
- ・多くの施設を見学させてもらえたことで見たかったことはすべて見れたので要望はないです。
- ・KKHにもう少し長く見学したかったです。

研修全体に対する評価

	大変悪かった	悪かった	どちらともいえない	よかった	大変よかった
①実施時期について				3	13
②期間について		1		5	10
③コースの構成について			2	4	10
④研修先のスタッフの対応				3	15
⑤信州大学教官の対応				1	15
⑥全体としての評価				3	13

3. 研修が与えた影響（自由記載）

- ・実際に海外に行ってその文化に触れることで、テレビや本などでは分からない良さが分かり、積極的な行動をすることの大切さを痛感することができ、これからの生活でも感じたことは伝えていこうと思えるようになった。また、英語はどこへ行っても必要な言語なのだなど実感したので、英語をきちんと学習しようという意欲を持たた。シンガポールの学生たちは、私たちよりも質の高い経験をたくさんしていて、私たちも負けてられないと思ったし、これから始まる実習へのモチベーションにもなった。
- ・医療に対する視野が広まった。また将来に対してモチベーションがあがった。当初、参加すること自体に迷いがありました。しかし海外に行き研修するという経験は大変貴重で、学生であるうちに体験することで将来の仕事に対する姿勢が変化するかもしれないと思い、参加しました。今は、参加して良かったと思っています。シンガポールの医療はとても発展していて、それだけではなく病院自体が多くの人が集う場所だと感じました。シンガポールと日本は大変似ていると思います。どちらも社会が発展している一方、少子高齢化による諸問題の対策を考えなければならない段階にいるためです。私は将来、増える高齢者と少なくなる子どもに何かしたいと思っています。今回の研修はそれを具体的に考えるスタートラインになったはずです。さらに、仕事についてから改めて海外研修に行く目標もあります。これのために日々の勉強・実習、その他にも語学の勉強もしていきます。参加できて良かったです、このような機会をいただきありがとうございました。
- ・日本以外の国に行くことで、その国の様子や風習を知ることが出来て、自分の視野を今までより広くもつことが出来た。
- ・今回の経験によって、世界に目を向ける良い機会になったと思う。これまで、私は世界に出ていく勇気も無いし、普通に看護師になることしか考えていなかったが、少子高齢化が進む現在、シンガポールでは英語やマンダリン語が必須のように、日本にいても英語を学ぶことは重要であることに気付かされ、今後も英語を学ぶことで、英語が話せる看護師になりたいと思った。
- ・海外の医療現場を実際に見て、いろんな国籍の医療従事者が勤務していた。日本ではあまりそのような光景はみられないことが多いので、今後、グローバル化する中で、外国人労働者に関する意識を変えていかなければならないと思った。また日本と海外の違いを実感して、日本の医療の良い点も知ることができたので、今後働く際にそのようなところも大切にしていきたいと思った。
- ・これから、専門用語の英語を勉強する必要があると思いました。将来、論文を読み書きするのに役立ちます。また、進路については、病院選びに際して、病院の規模や、どのような患者さんが多いのかなども参考にします。
- ・検査専攻は1年生の時に一度信大病院を見学して、次に病院見学に行くのは3年生の夏休み明けや春休みになります。なので、シンガポールの病院と日本の病院との比較はなかなか分かりませんで

したが、逆にこれから行く病院見学に向けてどのようなことをポイントとして勉強していけばよいのかなどを知ることができました。また、3年前期に勉強したことを中心に見学することができたので理解がさらに深まってよかったです。

- この研修を通して、日本の医療制度、そしてOTについて、より深く学びたいと思うとても良いきっかけになりました。さらに、より多くの国での医療を見てみたいという気持ちも大きくなり、今後学習していく上でとてもモチベーションが上がる体験となりました。進路はまだ曖昧にも思っていたのですが、臨床に携わりながら研究を行い、国の医療の未来を担う気持ちの強いシンガポールの医療者の方々とお話することが出来、大学院に進む将来も前向きに検討したいと考えるようになりました。このような機会を頂き、本当にありがとうございました。
- 今回の研修を通して、その国の基盤となる制度を知ることの大切さや日本との違いについて知り、様々なことに興味を持つことができた。自分の中の世界が広がり、今後はもっといろいろなことに興味を持って積極的に”知ろう”としていきたいと思った。
- 英語の大切さを身に染みて感じた。今のところ、今回の体験を通して海外で働こうとは思ってはいないが、英語の勉強、わからないことは積極的に聞く姿勢、シンガポールのPTの働く様子から感じたことをこれからの実習や就職した後の働き方に生かしていこうと考えている。
- 今後作業療法を学んでいくうえでの良い刺激になった。海外の医療をみることで日本の医療についてより深く考えることができるようになる。
- 卒業後、海外の仕事に興味を持った。
- 自分の進路について考えるきっかけになった。また、自分がこれから学んでいくことが世界で通用するものであること自覚した。また、信州大学で学んでの学びをもっと大切にしようと思った。それと同時に、先生たちともっと仲良くなりたいと思った。
- 知らなかったことや、日本との違い、実際の医療現場を間近で見ることができ、とても刺激を受けたので今後の勉強意欲がわいた。また、将来海外に就職する選択肢が増えた。

5. 学生レポート

シンガポール短期海外研修報告

1. はじめに

私たちは8月21日から28日までシンガポール研修を行った。現地で学んだこと、感じたことについて述べていきたいと思う。

2. 渡航前準備について

あらかじめ事前学習の資料を配布されるので、それを読んだり、必要なことを予習したりして、研修に向けて準備を行った。また、英語に関しては英会話教室に行くなど、各自で勉強を行った。

3. SGH (Singapore general hospital)

シンガポールで最初に設立され、最も大きい総合病院である Singapore General Hospital (SGH) へ研修に行った。SGHでの研修は、1日目

に全体、2日目に専攻別に分かれて行った。

【①研修1日目】

研修1日目はシンガポールの医療制度についての説明と施設の紹介をしてもらった。シンガポールの医療制度やSGHについて教えてもらった後、施設見学をした。SGHは、総合病院であるが、教育にも力を入れているようであり、Academiaと呼ばれる研究、教育の場である建物や、SGHの歴史について学べる博物館のような建物があった。

—医用工学部門の見学

ここにはモーションキャプチャーなどの機械が置いてあり、それぞれの機械について詳しく説明してくれた。

—理学療法部門の見学

個室のように区切られているところと日本

のリハビリ室のような大部屋があった。

—作業療法部門の見学

手指のリハビリをするところでは日本の市役所のように長いテーブルが一つ一つ区切られていて、多くの患者がリハビリできるようになっていた。その他にも手のリハビリ専用の機械も数多く置いてあった。また、退院後の生活に合わせたリハビリができるようにキッチンやリビング、寝室もあった。

—機能的訓練室

機能的訓練室という名のリハビリ室もあったが、みたところ理学療法に似たりリハビリをするようだった。理学療法部門も作業療法部門も患者一人につき療法士一人がつくそうで、少しずつ施設が日本と異なってもこの点は日本と同じであると感じた。

—言語聴覚療法部門の見学

一応部門としての空間はあるが、患者のもとに療法士が向かうこともあるらしい。また、嚥下造影検査などで使うカメラ機器も多く置いてある検査室もあった。

—看護部門の見学

ここは、今まで紹介したような治療をする場、というよりは看護師のトレーニングをする場所であった。マネキンがベッドの上においてあり、それを使ってシミュレーションするようであった。その様子を隣の部屋から監視、指示したりする。このように、SGHは教育にも力を入れている、と案内してくれた方はおっしゃっていた。また、病棟の見学もしたが、そこは7、8人で一つの部屋の大部屋だった。部屋については料金によってランク付けされているらしい。

—最後に、臨床検査部門の見学

ここでは、どのような検査、研究をしているか説明してくれた。これで、一日目の施設見学は終了した。

【②SGH 2日目：看護】

専攻別の研修では、看護は主に病棟の見学であったが、現場の看護師に1対1で質問できたのでとても有意義な1日となった。

施設の見学で印象に残ったのは、日本では一般的に見られない酸素を高圧で用いながら治

療を行う Hyperbaric oxygen therapy center というところである。そこでは、椅子がいくつか設置されている1つの部屋のようにになっている機械があった。その機械からは高圧酸素が出され、患者がその中に入ることで体の内側から創傷を治療するそうだ。末梢組織が低酸素環境となってしまう糖尿病や閉塞性動脈硬化症などの患者が対象である。日本ではみられない高度な医療機器が備わっており、最先端の医療を受けられる病院であると再認識した。

施設見学のあと、病棟も案内してもらった。シンガポールの病院は患者の収入などによってA1、A2、B1、B2、C1、C2クラスというようにランクが決まっている。A1クラスの患者は医者を選ぶことができ、ホテルのような広い個室、大きなテレビ、トイレやシャワールームがついていて、エアコン完備など、とても充実した設備のある部屋で療養生活を送れるのに対し、C2クラスは8~10人程度の多床室で、テレビなし、エアコンなしといったような部屋だったので、その違いを実際に目の当たりにして驚いた。お金がなくても最小限の設備でコストを抑えることで、医療を受けられるのは確かだが、経済的な格差が病院内に大きくあると思った。療養環境は患者の状態にも関わってくることだと思うので、もう少し格差が少なくなればいいのにも思った。

病棟の看護師から看護師の役割について説明を受け、ECGはふつう准看護師のチームがやるということに驚いた。日本での看護師はそうしても看護師よりはできる仕事に限られてしまうが、シンガポールでは准看護師の地位も高いのだと思った。

最後に、看護師の教育について聞いてみた。新人看護師は最初の3週間で病院のポリシーなどを学び、その後3ヶ月で採血などの技術を養成し、6ヶ月間病棟に勤務し、また次の6ヶ月間違う病棟に勤務するらしい。その後働きながら様々なコースで勉強をし、専門や短大卒の看護師でも学士の資格を取得することができるのだと聞いた。日本でも病院によって教育制度は違うが、最初に技術だけ集中して要請するコースはなかなかないと思うので、病棟で働きながら身に付けるより良いなあと思った。また、

働きながら勉強するコースがあり、資格までとれるとは、看護師のスキルアップにつながり、教育に相当力を入れていると感じた。

他に印象に残ったことは、病院内のあらゆる壁に様々な文章や絵が描かれていたことがとても印象的であった。そこで病院の歴史やシステム、看護師の役職の説明などがされていたり、優秀なスタッフは表彰をして称えていたり、また、様々な人からの応援や励ましのメッセージが飾られていた。病院に来た患者や家族の目につくところにそういったものがあることで、利用者は自然と病院のことを理解でき、信頼することができるのではないかと感じました。

その他にも驚かされたことに、患者や家族が病院に対して何か不満があれば、それを直接言うことのできる施設が設けられていたことである。日本人はあまり面と向かって文句を言うことができない人が多いと思うので、海外ならではの取り組みなのかなと感じたけれど、病院の質の向上のためにはすごく大事なことだし、必要なことであるなどと思った。日本との違いをたくさん見つけることができ、驚きとともにすごく面白かった。

【③SGH 2 日目：理学療法】

理学療法学専攻では、学生ごとにスケジュールが異なり、学生一人に療法士一人がつき、リハビリの様子を見学させてもらった。

私は、午前中は外来、午後は神経系の入院患者に対するリハビリを見学した。外来では次から次へと患者を診る必要があるため、とても忙しそうだった。日本の医者のように仕切られた個室とパソコンを持っていた。そこに患者を呼んでリハビリを行う。療法士によるが、私を担当してくれた療法士は個室でできるリハビリは個室で行うようにしているらしい。

患者に対するリハビリの説明は細かくし、リハビリ後の消毒を徹底するなど、自分が療法士になった時に真似できる点も多く発見することができた。

午後は神経系のリハビリを見学したが、外来と比べて長い時間をかけていた。リハビリが一通り終わった後、療法士の方と話す時間をくれたので、とにかくたくさん質問をした。外来の

時もそうであったが、基本的に質問したら快く答えてくれる。ただし、基本的に仕事であるため、できるだけ質問したいことは事前に考えておくと効率よく聞くことができると思う。

また、少なくとも整形病棟では退院した患者のアフターケアにも力を入れているようだ。例えば、歩行障害が残ってしまった患者や車椅子の患者にはどのように家をリフォームしたら良いかや、ヘルパーにどのようなことができるとどのようなことが難しいかなどのアドバイスをしているようだ。日本ではこのようなことをしているPTは少ないと聞いたので、退院後までしっかり患者をみるというこのシステムはいいと思った。研修後、ほかの理学療法学専攻の学生と、その日見たものについて報告をし合った。

【④SGH 2 日目：作業療法】

シンガポールは作業療法で熱傷の分野に力を入れており、様々な義肢装具を見ることができた。Burns ICUも見学させていただき、そこは4つの部屋があり、1つの部屋に1人の患者が入っていた。1人1人の患者に対しリハビリのスケジュールが細かく決められており、クリニカルパスも充実している。Burns ICUの部屋の中で手足の動きやスプリントを作業療法士が行っており、歩行は別の部屋で行っている。電子カルテは日本よりも進んでおり、入院時の初回評価もすぐ検索できる。

また、日本では見たことのない器具も見せていただき、特に印象に残ったものはBTe(図1)というもの。これは自動的なトレーニングをするもので、関節可動域訓練、握力・ピンチ力の他に、掃除機をかける動作や車のハンドル操作の訓練等、より具体的な日常生活動作訓練を行うことができる。訓練可能な動作は60種類以上もあり、この機会1つで様々なトレーニングができるため便利だと思った。

図2は患者をベッドから車イスや他の部屋に移乗する際に使うものである。病室や廊下の天井にレールが通っているため、長距離の移乗も可能である。この器具を使うと介護者側の腰の負担も軽減できると思った。また、日本と違った所は、評価するためだけの部屋があったとい

うこと。歩行の様子や階段昇降、物をどこまで持ち上げられるか等を評価する環境が整っていた。個別の部屋も充実しており、罪を犯した人が入る場所はカーテンがあった。

【⑤SGH 2 日目：検査技術科】

細菌検査室はとても大きいところで、培養部門と分析部門に分かれていた。培養部門では、日本で勉強しなかった培地も見ることができた。分析部門では、培地での発育性状、同定キット、質量分析装置による同定、薬剤感受性試験を見学した。基本的なことは日本と似ていたが、規模が異なっていた。印象に残ったのは、薬剤感受性試験だ。コンピュータによる阻止円の計測が一人、他にも二人が手作業で測定していた。コンピュータが高価であるから手作業でも行うそうだ。また、手作業のほうが時間を要するが正確であるそうだ。日本と同様、VRE や MRSA のスクリーニング検査も行われていた。また、細菌検査室の中に寄生虫部門もあった。

ウイルス検査室も見学した。日本ではまだ少ししか勉強する時間が取れておらず、詳しいことはわかっていなかった。そのことを話したら担当の方が基本的なことから教えてくれた。後期に勉強するため、とても参考になった。

免疫血清検査室では、検査室にある様々な機械や、抗核抗体検査を見学した。抗核抗体検査は、日本で実習したばかりの抗核抗体の検査と全く同じ方法であった。抗核抗体の蛍光染色結果は、顕微鏡で見確認するものと、パソコンの画面上に映し出して確認するものがあった。パソコン上のは、すぐにデータとして送信できる長所があるそうだ。機械の温度管理や、試薬などにラベルをつけることの重要性について教えてもらった。

輸血検査室では製剤や検査装置などを見学した。日本ではまだ輸血検査室を見たことがなかったので、不規則抗体と交差適合試験を自動分析装置でスクリーニング検査しているところを見て驚いた。Rh 血液型について質問したところ、「RhD (+) : RhD (-) = 85 : 15」でした。RhD (-) が日本では 0.5% であるのに対して 30 倍もあるということだ。これは、インド人が人口に多いことが理由であるそうだ。

4. NYP (Nan yang Polytechnic)

NYP は、3 年制の短大のようなところで、先進医療を中心に、臨床や在宅などの現場ですぐに応用できそうなことを多く学べる場であるように感じた。私たちが今まで大学で習ってきたことは、学校の中における訓練というイメージであるが、ここではとても現実味に満ちた内容を習得できるように感じた。本当に使える家の生活空間や手術室などが実習室の中に設けてあり、そこで実際に想定した演習などを行うことができる。PT や OT のための訓練室も何部屋も設けてあり、充実した実技練習が行えそうだと感じた。さらに、マジックミラーや喋るマネキン、最新のシミュレーションシステムが導入されていることにも驚いた。実際に学生と関わる機会はなかったが、この学校の学生が受けている教育にとっても関心を持った。

この NYP には様々な学部が存在しており、その強みを活かして、あらゆる分野の専門科と共同で研究も進めているそうだ。例えば、新しい医療機器の発案は看護学科、開発はエンジニアを専門とする学科でタグを組んで行うこともあるそうだ。一つの学科では難しいことも専門性が融合することで大きな可能性に繋がるのが、素晴らしい仕組みだと感じた。学生としても、研究者としてもやりがいがあるのではないかと考える。

5. Bright Vision Hospital 研修

シンガポールの Ministry of Health のうち Sing-Health の組織の一つである。この病院は慢性期病院であり、多くの高齢者が長期滞在している。慢性期を専門とする病院であるが、SGH との連携システムを持っている。この病院の研修は、シンガポールの高齢社会のことを知る機会になると思った。そしてもちろん日本の高齢社会でもどのように対応していくのかを考える材料となると感じた。そのためとても関心が高い施設であった。

この BVH でも、寝たきりの高齢者を多く見た。また、スポンジを足部などの拘縮を起しやすいく関節に巻き付けて圧迫を少なくすることで褥瘡予防、血流を妨げないようにしている姿も

見た。寝たきりの方々の部屋には仕切りがなく、一つの大部屋に20~30人いるように見られた。高齢社会の現状は、日本もシンガポールも部分的に類似している点があるように思える。慢性期を専門とする病院のイメージというものは、薄暗いものである。しかし、日本の病院よりも明るい空間があるように感じ取られた。それはリハビリテーションをしている空間だ。廊下に何ヶ所か器具を置いて、腕を動かすことや手先の運動を行う方もいた。

さらに広い空間では、大きな器具を用いて体の運動をしている方がいた。その横には、キッチンが併設されており、誰でも使えるようになっていた。これもリハビリテーションの一つになるようになっていた。これには驚かされた。台所の高さを個人に合うように変えられ、他にも簡単に引き出しが開くような仕組みになっていたが、何より日常生活を想定した訓練を行える（本当に料理もできる）。これは、入院患者の目標を自分の家に帰り、生活できることに目標を置いているためである。キッチン以外にも、自宅に戻っても日常生活を行えるような工夫が多くあった。本物のタクシーを置き、交通面でのコミュニケーションや乗り降りの方法まで訓練できる環境が整えてあった。

さらに日本との大きな違いは、OTやPTに従事する専門職がとても多いということだ。日本では看護職が多いようだが、この病院を見て、OT・PTの仕事が日本でも今以上に欠かせないものになるうえに、もっと数が必要であると強く感じた。事前学習でも知ったが、シンガポールにはボランティアがとても多いそうだ。ボランティアで福祉が成り立っているともいえる。この病院でも、多くのボランティアがいるそうだ。日本の病院でもここまで退院する過程や、退院後のことを考えているところはなかなかないように思った。そのため、日本の社会でも応用できると思った。日本の福祉は国家に頼るところが多いように思うが、自助・共助の福祉を考える機会となった。

6. KK Women's and Children's hospital (KKH)

【①看護】

KKHはWomen's TowerとChildren's Tower

とそれぞれ分かれているのが特徴的だった。この病院は、最も赤ちゃんを取り上げた病院としてギネスブックにも載たことがあるらしい。病棟の見学では、母乳育児を大切にしている、出産後の母親と赤ちゃんは毎日1時間SKIN-SKIN CONTACTというものを行っていると言話を聞き、日本と同じ点だと思った。とはいえ、母親は疲れたら赤ちゃんを別室に移動させて、休むことができるらしい。

赤ちゃんを預かっている別室を覗いたら、赤ちゃんはインド、中国、マレー系など様々な赤ちゃんがいて、とても小さくくるまれていた。日本ではあまり赤ちゃんをくるむようなことはしないし、小さいといっても体重は3000kg以上みたいで驚いた。赤ちゃんにはチェックバンドがついていて本人確認されていた。また、シンガポールにも母子手帳のようなものがあることを知った。医師のチェック項目や聴覚検査、BCGや結核ワクチンの有無などの項目が記載されていて、これも日本と同様だと思った。

病棟を案内してもらうなかで、母乳促進をしているため、共同の冷蔵庫には母乳に良いとされるキャベツを1つ残しておく決まりがあると紹介され、とてもおもしろいと思った。また病院の中には多くの憩いの場といえる空間があった。患者もスタッフも使えるトレーニングジムがあり、カラフルな模様の壁があったりと医療以外の工夫が凝らされているのも印象的だった。

【②理学療法】

小児のリハビリを医学療法士の先生のもとで見学をした。始めはOTの人と一緒にリハビリステーションを見学し、プールやリハビリルームを見せてもらった。その後はそれぞれ分かれて治療の見学をさせてもらった。そして質問もたくさんすることができた。

例えば、プールを見せてもらった時に、幼児のリハビリにも使うと説明されたので聞いてみると、四肢が拘縮している幼児などはプールに入って波に揺られているだけでもリハビリになるのでそういう時に使っているとのことだった。他にも、妊婦は妊娠するとホルモンにより骨が柔らかくなるため関節がずれやすく、

それにより腰痛や背痛が生じるらしく、腰の負担を減らすためにプールでリハビリをすることもあるそうだ。

また、出産前は体力作りのためにエクササイズをしたり、マッサージやよい姿勢の指導も行うそうだ。産後は緩んだ筋肉を締めるようにリハビリを行うと教えてくれた。妊婦に対するリハビリについて詳しく聞いたことが今までなかったため、今回いろいろ聞いて、PTはいろいろな人に対してリハビリができるのだと実感した。

後半は先生を代えて外来患者の治療の様子を見学させてもらった。このPTの先生は、患者に対する接し方がとても印象的で、患者との目線の高さや声色、視線、表情が患者に寄り添うものでありお手本となるような接し方であった。

体重管理の必要な患者さんを見て感じたことは、子どもは子どもだけの問題ではなく、家族のサポートも必要であることです。両親もリハビリの様子を見学していましたが、両親ともに肥満体系で、子どものリハビリにとって減量が必要なことは明らかでしたが、両親が対応できていないようでした。小児にはそういった難しさがあるものの、子供の成長と共に子どもから学べることも多いと感じました。

【③作業療法】

実際こどものリハビリを観察させてもらった。また、各部屋の機能についても説明を受けた。見学時だけでも休むことなく入れ替わりで患者さんが来ていて忙しそうだったのが印象的だった。また、OT室では日本のOT室のようにたくさんのおもちゃが用意されていて、日本の発達分野の作業療法に近い光景を見ることができた。

【④検査技術科】

細菌検査室、輸血検査室、代謝異常スクリーニング検査室を見学させてもらった。細菌検査室では、培地や検体、検査の流れなどを説明してもらった。この病院では働き始めてから、症状と検体の組み合わせ、検体と培地、想定される菌の組み合わせ、培養方法などを詳しく勉強

するそうだ。日本にある新人教育と同じであると思った。

次に、輸血検査室を見学した。ここでは、他の病院とは違うと思われることが二つあった。一つ目は、血液製剤を扱う機械の温度は、製剤や目的ごとに異なっているが、それらすべての機械の温度を1つのモニターで管理しているということだ。異常があると音が鳴って知らせてくれるそうだ。二つ目は、子供用の輸血パックが小さくなっていることだ。子供が多い病院なので無駄がなくて良いことだと思った。この病院の輸血に関するデータは大きい記録庫に保管されており、記録はパスポート番号で並べられていた。

最後に、代謝異常スクリーニング検査室を見学した。患者数が多いので、96ウェルのプレートを用いて検査をするそうだ。また、アミノ酸分析装置を用いて2時間で検査ができるということも教えてもらった。分析したデータからどんな異常があるのかを解析するそうだ。日本でもあまり勉強していない分野であったが、参考になった。

6. 観光について

シンガポールは今年建国50周年であることから、様々な催しがなされていた。到着してすぐに週末であったため、私たちはマリーナベイサンズ、ガーデンバイザベイ、マーライオン、オーチャード、そして日曜にはセントーサ島と出来る限りの観光をした。

シンガポールは、小さな面積の土地に建物が密集しており、とても都会であり、特に、夜のシンガポールの夜景は格別であった。研修は、日中のみなので夜はフリーだった。そのため、自分のその日の身体のコンディションと相談しながら出来るだけ多くの場所に行くことができたと思う。

病院研修前に観光を行ったことで、英語やシンガポールの交通などにも多少慣れることが出来たのも、とても良かったのではないかと感じた。

7. 英語について

英語に関しては、最初、思っていることがあ

ってもそれを英語に訳すことができずに、英語を話すことが少し億劫になっていた。しかし、自ら行動を起こさなくてはならない環境の中で、友人と観光をしたりして日にちを重ねていくと、拙い英語でもなんとか伝わることを実感し、段々積極的に話しかけることができるようになっていた。これにより、チャレンジすることの重要性を感じることができた。そしてもっと英語が話せていたら、躊躇って聞けなかったことも聞けたと思うので、これからも英語について学んでいきたいと思った。

8. 最後に

今回、このようにたくさんの経験をさせて頂く機会には、先生方、また事務の方々の尽力があってこそであった。このような貴重な経験、学

びを今後の学習、進路に役立て、さらに私たち自身が今後日本の医療の発展に役立つことが出来るよう邁進していきたいと思う。貴重な機会を与えて下さった先生方、学務の方々、そしてシンガポールでご指導くださった方々にも、この場を借りて感謝する。

シンガポール研修 参加学生一同

以上、シンガポール夏期短期プログラム

【編集後記に代えて 国際交流委員会委員長】

今年で14回目のカーティン大学短期留学、2回の、シンガポール短期研修プログラムが終了しました。

カーティン大学では2週間、シンガポールは約1週間、学生たちは多くの体験をし、一回り大きくなって帰ってきました。「百聞は一見に如かず」といいますが、海外での異文化体験は大きな学びとなり、彼らの今後の成長の糧となっていると思います。

カーティン大学、信州大学国際交流室、医学部長、保健学科長、保健学科同窓会、帯同教員と国際交流委員、そして保護者の皆様のご協力に対し、あらためて心より深く御礼申し上げます。

(国際交流委員会 委員長 奥野ひろみ)



.....

「信州大学医学部保健学科平成 27 年度夏期海外研修プログラム実施報告書」

2015 年 11 月 20 日

発行責任者：金井 誠

編 集：平成 27 年度医学部保健学科 国際交流委員会

発 行：信州大学医学部保健学科

.....